

PRIMERGY オプション製品

システム構成図（留意事項編）

※各機種の樹系図については、当社ホームページ（<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>）をご参照ください。

本文中のOS名称は、次のように略して表記します。

OS名	略称			
Windows Server® 2022 Standard	WS22S	Windows		
Windows Server® 2022 Datacenter	WS22D			
Windows Server® 2022 Essentials	WS22E			
Windows Server® IoT 2022 for Storage Standard	WSI22SS			
Windows Server® 2019 Standard	WS19S			
Windows Server® 2019 Datacenter	WS19D			
Windows Server® 2019 Essentials	WS19E			
Windows Server® IoT 2019 for Storage Standard	WSI19SS			
Windows Server® 2016 Standard	WS16S			
Windows Server® 2016 Datacenter	WS16D			
Windows Server® 2016 Essentials	WS16E			
Windows® Storage Server 2016 Standard	WSS16S			
Windows Server® 2012 R2 Standard	WS12RS			
Windows Server® 2012 R2 Datacenter	WS12RD			
Windows Server® 2012 R2 Foundation	WS12RF			
Windows Server® 2012 R2 Essentials	WS12RE			
Windows® Storage Server 2012 R2 Standard	WSS12RS			
Windows Server® 2012 Standard	WS12S			
Windows Server® 2012 Datacenter	WS12D			
Windows Server® 2012 Foundation	WS12F			
Windows Server® 2012 Essentials	WS12E			
Windows® Small Business Server 2011 Essentials	SBS11E			
Windows® 11 Home	W11H			
Windows® 11 Pro	W11P			
Windows® 11 Enterprise	W11EN			
Windows® 11 Education	W11ED			
Windows® 10 Home (32-bit/64-bit)	W10H			
Windows® 10 Pro (32-bit/64-bit)	W10P			
Windows® 10 Enterprise (32-bit/64-bit)	W10EN			
Windows® 10 Education (32-bit/64-bit)	W10ED			
Red Hat® Enterprise Linux® 9 (for Intel64)	RHEL9(Intel64)	RHEL	Linux	
Red Hat® Enterprise Linux® 8 (for Intel64)	RHEL8(Intel64)			
Red Hat® Enterprise Linux® 7 (for Intel64)	RHEL7(Intel64)			
Red Hat® Enterprise Linux® 6 (for Intel64)	RHEL6(Intel64)			
Red Hat® Enterprise Linux® 6 (for x86)	RHEL6(x86)			
Red Hat® Enterprise Linux® 5 (for Intel64)	RHEL5(Intel64)			
Red Hat® Enterprise Linux® 5 (for x86)	RHEL5(x86)			
SUSE® Linux Enterprise Server 15 for AMD64 & Intel64	SLES 15 (x86_64)			SLES
SUSE® Linux Enterprise Server 12 for AMD64 & Intel64	SLES 12 (x86_64)			
SUSE® Linux Enterprise Server 11 for AMD64 & Intel64	SLES 11 (x86_64)			
VMware vSphere® 8 (VMware vSphere ESXi 8.0)	vS8.0	VMware		
VMware vSphere® 7 (VMware vSphere ESXi 7.0)	vS7.0			

サーバ監視・管理ソフトウェアについて

PRIMERGYのサーバ監視・管理には、ServerView Suite、Infrastructure Manager をご使用になれます。以下の各サーバ監視ソフトウェアの特徴をご確認いただき、適切なサーバ監視を選択してください。

・用語

業務ネットワーク：通常の業務で使用され、動作しているOSにアクセスできるネットワークです。

管理ネットワーク：管理専用で使用されるネットワークです。PRIMERGYの場合、リモートマネジメントコントローラと接続されるネットワークです。

[サーバ監視ソフトウェアの種類] ※iRMC S6をご使用のお客様 (TX1310 BMC非搭載モデル含む)

監視ソフトウェア		リモートマネジメントコントローラ Webインターフェース [iRMC WebUI] (*1)	Infrastructure Manager [ISM]
特徴		<ul style="list-style-type: none"> OS上に監視ツールをインストールせず監視可能 (*2) 使用するOSに依存しない 管理サーバを用意する必要なし 装置が電源OFFのときも管理可能 	<ul style="list-style-type: none"> 運用監視を自動化 他社装置、ネットワークも管理 大規模管理ソフトウェアと連携可能 仮想アプライアンスとして提供
構成	管理可能装置数	1台	2~1000台
	監視対象 (情報取得先) (*3)	iRMC S6 (ServerView Agentless Service / ServerView ESXi CIM Provider / ServerView ESXi Health Core Provider)	iRMC S6 (ServerView Agentless Service / ServerView ESXi CIM Provider / ServerView ESXi Health Core Provider)
	ストレージ監視	監視対応アレイコントローラ (*4)	監視対応アレイコントローラ (*4)
環境	監視ソフトの インストール先	必要なし	仮想ホスト (仮想アプライアンスとして提供)
	使用するネットワーク	管理ネットワーク	業務ネットワーク 管理ネットワーク
	監視対象に必要な ソフトウェア (*5)	(ServerView Agentless Service / ServerView ESXi CIM Provider / ServerView ESXi Health Core Provider)	必要なし
	推奨環境	<ul style="list-style-type: none"> 複数台を管理する必要がない OS上に余分なソフトウェアを入れたくない ネットワークを監視と業務で分離したい ハードの状態監視ができればよい 	<ul style="list-style-type: none"> 監視対象が数台~数百台規模 サーバ以外のリソースも管理したい 運用管理コストを削減したい 大規模管理ソフトウェアを導入している 仮想化ソフトウェアを使用している

(*1) PRIMERGY TX1310 M5のBMC非搭載モデルはiRMCを搭載していません。本モデルはServerView Agentless Serviceに付属するsystem snapshotを利用します。

(*2) 監視対象サーバ用エージェントソフトウェアを監視対象サーバにインストールすることで、リモートマネジメントコントローラの管理・監視機能の拡張が行えます。

(*3) それぞれの監視対象の詳細については、後述の [監視対象サーバ用エージェントソフトウェアの種類] をご確認ください。

(*4) 使用可能な構成および留意事項は、「iRMC(リモートマネジメントコントローラ)関連」をご覧ください。

(*5) このほか、監視ソフトウェア自身または一部機能を使用するために、OSの機能や追加パッケージを必要とする場合があります。詳細は各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

[サーバ監視ソフトウェアの種類] ※GXをご使用のお客様

監視ソフトウェア (*1)		ベースボードマネジメントコントローラ [BMC]	Infrastructure Manager [ISM]
特徴		<ul style="list-style-type: none"> OS上に監視ツールをインストールせず監視可能 使用するOSに依存しない 管理サーバを用意する必要なし 装置が電源OFFのときも管理可能 	<ul style="list-style-type: none"> 運用監視を自動化 他社装置、ネットワークも管理 大規模管理ソフトウェアと連携可能 仮想アプライアンスとして提供
構成	管理可能装置数	1台	2~1000台
	監視対象 (情報取得先)	BMC	BMC
	ストレージ監視	BMCはストレージ監視をしません (*2)	-(*)2)
環境	監視ソフトの インストール先	必要無し	仮想ホスト (仮想アプライアンスとして提供)
	使用するネットワーク	管理ネットワーク	業務ネットワーク 管理ネットワーク
	監視対象に必要な ソフトウェア	必要なし	必要なし
	推奨環境	<ul style="list-style-type: none"> 複数台を管理する必要がない OS上に余分なソフトウェアを入れたくない ネットワークを監視と業務で分離したい ハードの状態監視ができればよい 	<ul style="list-style-type: none"> 監視対象が数台~数百台規模 サーバ以外のリソースも管理したい 運用管理コストを削減したい 大規模管理ソフトウェアを導入している 仮想化ソフトウェアを使用している

(*1) リモート通報監視対象外モデルがあります。

GX2560 M7

(*2) ストレージ監視はServerView RAID Managerにて可能です。ServerView RAID Managerは以下URLよりダウンロードして入手ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

・各監視ソフトウェアで監視可能な項目につきましては、下記に掲載の「ServerView Operations Manager サーバ監視ご紹介」をご確認ください。

■当社ホームページ:

<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/pdf/svs/svom-server.pdf>

・リモートマネジメントコントローラ[iRMC S6]によるサーバ監視・管理の設定方法につきましては、下記に掲載の「マニュアル」をご確認ください。

■当社ホームページ:

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/> →
「ServerView Suite のマニュアル」 → 「製品を選択する」 → 「製品の検索」 → 「iRMC」 で検索する

・Infrastructure Manager については、以下をご確認ください。

■当社ホームページ:

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/>

システム構成図留意事項

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

・Infrastructure Manager [ISM] サポート

ISM用のサポートサービスとして「SupportDesk Standard」をご用意しております。
専任技術者による充実したサービス内容でお客様のシステムの安定稼働を強力にバックアップします。
提供ラインナップ詳細は下表のとおりです。

	SupportDesk Standard (平日サポート)	SupportDesk Standard (24時間サポート)
サービス時間帯	平日8:30-19:00	24時間365日
サポート対象範囲	仮想アプライアンス	仮想アプライアンス
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・専門技術者によるサポート(電話によるQ&A対応/問題解決支援など) ・Webによる情報提供(ソフトウェアの修正情報/運用ノウハウ/サービス対応履歴など) 	

ISM Advancedは、ご購入から1/3/5年のSupportDeskがバンドルされています。

SupportDeskのサービスを開始するには製品に同梱されている「お客様登録票」にご記入のうえ、担当営業へご提出ください。

お客様登録完了後、サービス開始となります。

ISM Essential は、ホームページより無償でダウンロードしてご利用いただくことは可能ですが、サポートは受けられません。

別途SupportDeskをご契約いただくことを推奨します。これにより 「ISM Essential に関するお問い合わせへの対応」 や、「最新版のアップデートモジュール」 の入手が可能(*)となります。

なお ISMのリモート通報機能でハードウェアのリモート通報による保守を受けるには、ハードウェアのSupportDesk契約の他に、ISM EssentialのSupportDesk契約が必須です。

(*) サポート契約がなく、最新版にする場合は、新規インストールを実施いただくこととなります。

SupportDesk Standard のサポート対象は、ISMのみです。

利用ハードウェア/ゲストOS/ミドルウェアのサポートは、別途、SupportDesk 契約が必要です。

また、他社機上で本製品を動作させている場合は、サポート対象外です。

ISMのサポート付き製品は下表のとおりです。

略称			製品名	型名	平日	24時間
Infrastructure Manager [ISM]	Advanced	サーバ	Infrastructure Manager Advanced Edition サーバライセンス(1年間24時間サポート付) V2	B5178D481	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition サーバライセンス(3年間24時間サポート付) V2	B5178F481	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition サーバライセンス(5年間24時間サポート付) V2	B5178H481	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition サーバライセンス(1年間平日サポート付) V2	B5178E481	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition サーバライセンス(3年間平日サポート付) V2	B5178G481	○	-
		Infrastructure Manager Advanced Edition サーバライセンス(5年間平日サポート付) V2	B5178J481	○	-	
		ノード	Infrastructure Manager Advanced Edition 1ノードライセンス(1年間24時間サポート付) V2	B5177V481	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 1ノードライセンス(3年間24時間サポート付) V2	B5177X481	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 1ノードライセンス(5年間24時間サポート付) V2	B5177Z481	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 1ノードライセンス(1年間平日サポート付) V2	B5177W481	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition 1ノードライセンス(3年間平日サポート付) V2	B5177Y481	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition 1ノードライセンス(5年間平日サポート付) V2	B51780481	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition 5ノードライセンス(1年間24時間サポート付) V2	B51787485	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 5ノードライセンス(3年間24時間サポート付) V2	B51789485	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 5ノードライセンス(5年間24時間サポート付) V2	B5178B485	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 5ノードライセンス(1年間平日サポート付) V2	B51788485	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition 5ノードライセンス(3年間平日サポート付) V2	B5178A485	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition 5ノードライセンス(5年間平日サポート付) V2	B5178C485	○	-
			Infrastructure Manager Advanced Edition 10ノードライセンス(1年間24時間サポート付) V2	B5177P48A	-	○
			Infrastructure Manager Advanced Edition 10ノードライセンス(3年間24時間サポート付) V2	B5177R48A	-	○
	Infrastructure Manager Advanced Edition 10ノードライセンス(5年間24時間サポート付) V2		B5177T48A	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 10ノードライセンス(1年間平日サポート付) V2		B5177Q48A	○	-	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 10ノードライセンス(3年間平日サポート付) V2		B5177S48A	○	-	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 10ノードライセンス(5年間平日サポート付) V2		B5177U48A	○	-	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 20ノードライセンス(1年間24時間サポート付) V2		B5178148F	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 20ノードライセンス(3年間24時間サポート付) V2		B5178348F	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 20ノードライセンス(5年間24時間サポート付) V2		B5178548F	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 20ノードライセンス(1年間平日サポート付) V2		B5178248F	○	-	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 20ノードライセンス(3年間平日サポート付) V2		B5178448F	○	-	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 20ノードライセンス(5年間平日サポート付) V2		B5178648F	○	-	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 100ノードライセンス(1年間24時間サポート付) V2		B5177H48N	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 100ノードライセンス(3年間24時間サポート付) V2		B5177K48N	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 100ノードライセンス(5年間24時間サポート付) V2		B5177M48N	-	○	
	Infrastructure Manager Advanced Edition 100ノードライセンス(1年間平日サポート付) V2	B5177J48N	○	-		
	Infrastructure Manager Advanced Edition 100ノードライセンス(3年間平日サポート付) V2	B5177L48N	○	-		
	Infrastructure Manager Advanced Edition 100ノードライセンス(5年間平日サポート付) V2	B5177N48N	○	-		
	Essential (*)	-	Infrastructure Manager Essential Edition	SV7BA003G	○	-
			Infrastructure Manager Essential Edition	SV7BA003R	-	○

(*) 製品名、型名はEssentialのSupportDesk契約を表しています。なお、EssentialのSupportDesk契約は月額払いとなります。金額の詳細はシステム構成図本体を参照ください。

購入ライセンス数は以下を参照ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/license/>

【監視対象サーバ用エージェントソフトウェアの種類】

■ ServerView ESXi CIM Provider

対応OS:

VMware ESXi 7.x

概要:

VMware ESXi ホスト上で動作し、ハードウェアと通信を行い、本体装置の状態監視や各種データの取得やロギング、異常通知を行います。

- ・留意事項やインストール手順につきましては、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/>) 内、VMwareのマニュアルをご確認ください。
- ・VMwareのサーバ監視・管理においては、リモートマネジメントコントローラを使用した、サーバ監視・管理を推奨いたします。システムボード上に実装されているコントローラを使用するため、OSが停止している場合にも継続して、サーバ監視・管理をすることが可能です。
- ・Proactive HA機能を使用するVMware環境のサーバ監視・管理においてはvCenter Serverによる監視と、リモートマネジメントコントローラを使用した、サーバ監視・管理が併用して動作する必要があります。
- ・ServerView ESXi CIM Providerを使った監視の場合、ESXi上で利用可能なリソースに制約があるため、問題が発生した時に十分な情報が得られず原因究明にいたらない場合があります。回避策として CIM Provider の再インストール、もしくは定期的な手動での再起動をお願いする場合がございますので、ご了承ください。

■ ServerView ESXi Health Core Provider

対応OS:

VMware ESXi 8.x

概要:

iRMCでの管理に加え、ServerView ESXi Health Core Providerを導入いただくことで、PRIMERGYのOut-Of-Band管理を拡張することができます。

- ・留意事項やインストール手順につきましては、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/>) 内、VMwareのマニュアルをご確認ください。
- ・VMwareのサーバ監視・管理においては、リモートマネジメントコントローラを使用した、サーバ監視・管理を推奨いたします。システムボード上に実装されているコントローラを使用するため、OSが停止している場合にも継続して、サーバ監視・管理をすることが可能です。
- ・Proactive HA機能を使用するVMware環境のサーバ監視・管理においてはvCenter Serverによる監視と、リモートマネジメントコントローラを使用した、サーバ監視・管理が併用して動作する必要があります。

■ リモートマネジメントコントローラ[iRMC S6]

対応OS:

OS依存なし

概要:

リモートマネジメントコントローラは標準搭載のハードウェアです。

システムボード上に実装されているコントローラを使用するため、OSが停止している場合にも継続して、サーバ監視・管理をすることが可能です。

リモートマネジメントコントローラ[iRMC S6]によるサーバ監視・管理の設定方法につきましては、下記に掲載の「マニュアル」をご確認ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/> →

「ServerView Suite のマニュアル」 → 「製品を選択する」 → 「製品の検索」 → 「iRMC」で検索する

- ・OSのシャットダウン処理やOSの情報取得を行うためには、監視対象サーバ上のOSにServerView Agentless Serviceをインストールする必要があります。ServerView Agentless ServiceのサポートOSはWindows/Linuxのみとなります。

■ ServerView Agentless Service

対応OS:

Windows/Linux

概要:

iRMCでの管理に加え、ServerView Agentless Serviceを導入いただくことで、PRIMERGYのOut-Of-Band管理を拡張することができます。

ServerView Agentless Serviceを導入いただくことによる追加機能につきましては、下記に掲載の「マニュアル」をご確認ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/> →

「ServerView Suite のマニュアル」 → 「製品を選択する」 → 「製品の検索」 → 「iRMC」で検索する

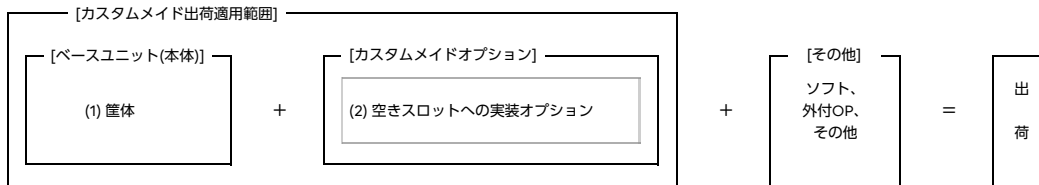
ウイルス対策について

- PRIMERGYを安定してご使用いただくため、ウイルス対策の導入を強くおすすめします。ウイルス対策はお客様ご自身の責任において行ってください。

カスタムメイド出荷について

カスタムメイド出荷とは、CPU/メモリ/ディスク等のオプション をお客様の仕様に合わせて追加し、本体に実装して出荷することのできる形態です。カスタムメイド出荷により、お客様のシステム規模/予算にあった最適なシステム構成での導入が可能となります。

- カスタムメイド出荷対象製品の製品構成について
カスタムメイド出荷対象製品の製品構成は、「ベースユニット(本体)」と「カスタムメイドオプション」から構成されます(下図参照)。それ以外の製品に関しては、製品単位で梱包されて出荷されます。



[カスタムメイド適用製品一覧]

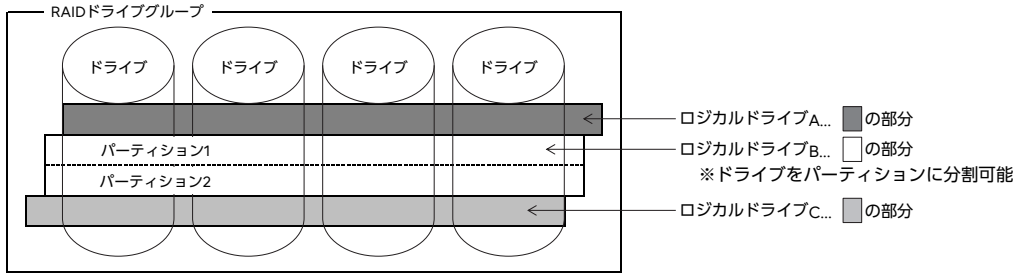
- ベースユニット(本体)
PRIMERGY本体機種/外付オプション(JX40 S2/JX60 S2/PRIMERGY SX05 S2/PRIMERGY SX05 S3)が対象となります。
- カスタムメイドオプション：空きスロットへの実装オプション
PRIMERGY専用の内蔵オプションが対象となります。(注：FMVとの共通製品等を除く)。

- カスタムメイド出荷における注意事項について
出荷後の機器に対しOSをインストールする際には、予定外の装置に間違ってOSがインストールされることを事前に防ぐため、OSインストール先の内蔵ストレージ以外のオプション装置(内蔵HDD/SSD、内蔵/外付バックアップ装置、光磁気ディスクユニット等)を一旦取り外し、OSインストール終了後に再接続する必要があります。カスタムメイド手配時にはご注意願います。

内蔵ストレージ関連事項

ディスクアレイ構成の考え方

- RAIDドライブグループ・・・1つのRAIDを構成する物理的なストレージの集まり。
- ロジカルドライブ・・・OSがドライブとして認識できるドライブ。
- パーティション・・・OSで設定するロジカルドライブを分割したアクセス論理単位。



<構成規則について>

- RAIDドライブグループは、同名型の内蔵ストレージでの構成を推奨します。なお、同種類(SAS/ニアラインSAS/BC-SATA/SATA/SAS SSD/SATA SSD/PCIe SSD)、同容量/同回転数/同書き込み保証値の内蔵ストレージでの構成は可能です。
※自己暗号化機能対応の内蔵ストレージを使用する場合、RAIDドライブグループは、同名型の内蔵ストレージで構成してください。
- 同一RAIDドライブグループ内のロジカルドライブは、同一のRAIDレベルとなります。
- ブートロジカルドライブのサイズは、2TB未満に設定してください。ロジカルドライブの最大サイズは、インストールする各OSの制限に準じます。
ただし、UEFI環境でご使用になる場合は2TB以上に設定することも可能です。
各機種のUEFI環境対応状況は、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>)をご参照ください。
- 1つのRAIDドライブグループを構成する内蔵ストレージの台数は、以下のとおりです。

RAID0	(性能向上のために、データを複数ドライブへ分割して書き込む方式)	1~32台 (*2)	ロジカルドライブの実効データ容量は接続したドライブ容量の総和
RAID1	(信頼性向上のために、ドライブを二重化し同一データを書き込む方式)	2台	ロジカルドライブの実効データ容量は接続したドライブ容量の1/2
RAID1E (*1)	(信頼性向上のために、データを分割・二重化し、複数ドライブに書き込む方式)	4~32台 (偶数台のみ構成可能)	ロジカルドライブの実効データ容量は接続したドライブ容量の1/2
RAID1+0	(分割(RAID0)し、複数ドライブに書き込む方式)	4~16台 (*3) (偶数台のみ構成可能)	ロジカルドライブの実効データ容量は接続したドライブ容量の1/2
RAID5	(信頼性向上のために、データを分割し、パリティを加えて書き込む方式)	3~32台 (*4)	ロジカルドライブの実効データ容量は(接続したドライブ台数-1)台分
RAID5+0	(RAID5の性能向上のために、RAID5のデータを分割し、複数ストライピングに書き込む方式)	6~240台 (*5)	ロジカルドライブの実効データ容量は(RAID5構成のドライブ台数-1)×ストライピング数
RAID6	(信頼性向上のために、データを分割し、2つのパリティを加えて書き込む方式)	3~32台 (*6)	ロジカルドライブの実効データ容量は(接続したドライブ台数-2)台分
RAID6+0	(RAID6の性能向上のために、RAID6のデータを分割し、複数ストライピングに書き込む方式)	6~256台 (*7)	ロジカルドライブの実効データ容量は(RAID6構成のドライブ台数-2)×ストライピング数

- (*1) RAID管理ツールによっては、「4~32台のドライブで構成されるRAID1」として表示されます。
- (*2) SASコントローラカード(PSAS CP 2100-8i/PSAS CP 2200-16i)[PY*SC3MA*/PY*SC4MA*]およびSASアレイコントローラカード(PRAID EP 3252-8i/PRAID EP 3254-8i/PRAID EP 3258-16i)[PY*SR4MA*]の場合は1~128台、オンボードソフトウェアRAID (Intel VROC SATA)の場合は2~8台となります。
- (*3) SASコントローラカード(PSAS CP 2100-8i/PSAS CP 2200-16i)[PY*SC3MA*/PY*SC4MA*]およびSASアレイコントローラカード(PRAID EP 3252-8i/PRAID EP 3254-8i/PRAID EP 3258-16i)[PY*SR4MA*]の場合は4~128台、オンボードソフトウェアRAID (Intel VROC SATA)の場合は4台となります。
- (*4) SASコントローラカード(PSAS CP 2100-8i/PSAS CP 2200-16i)[PY*SC3MA*/PY*SC4MA*]およびSASアレイコントローラカード(PRAID EP 3252-8i/PRAID EP 3254-8i/PRAID EP 3258-16i)[PY*SR4MA*]の場合は3~128台となります。
- (*5) SASアレイコントローラカード(PRAID EP 3252-8i/PRAID EP 3254-8i/PRAID EP 3258-16i)[PY*SR4MA*]の場合は6~128台となります。
- (*6) SASアレイコントローラカード(PRAID EP680i/PRAID EP640i/PRAID EP680e)[PY*SR4C6*]の場合は4~32台、SASアレイコントローラカード(PRAID EP 3252-8i/PRAID EP 3254-8i/PRAID EP 3258-16i)[PY*SR4MA*]の場合は4~128台となります。
- (*7) SASアレイコントローラカード(PRAID EP680i/PRAID EP640i/PRAID EP680e)[PY*SR4C6*]の場合は8~240台、SASアレイコントローラカード(PRAID EP 3252-8i/PRAID EP 3254-8i/PRAID EP 3258-16i)[PY*SR4MA*]の場合は8~128台となります。
- (5) 1つのストレージコントローラに複数のRAIDドライブグループを作成することが可能です。その際、各RAIDドライブグループ毎に異なるRAIDレベルのロジカルドライブを作成することが可能です。
一つのRAIDドライブグループ内に複数のロジカルドライブを作成する際、各ロジカルドライブに異なるRAIDレベルを指定することはできません。
使用するストレージコントローラごとに作成可能なRAIDドライブグループ数、ロジカルドライブ数が異なります。詳細については、下表をご確認ください。
※各ストレージコントローラはPCIパススルー非サポートです。

ストレージコントローラ	型名	RAIDドライブグループ数	ロジカルドライブ数		
			1RAIDドライブグループ当たり	左記以外のRAIDレベル	1カード当たり
オンボードSATAコントローラ	標準搭載(Intel VROC (SATA RAID))	4	2	2	4
PCIe SSD オンボードNVMe接続	PY-RLVR02/PYBRLVR02 (Intel VROC (VMD NVMe RAID))	4	2	2	4
SASコントローラカード	PY-SC3MA2/PYBSC3MA2/PYBSC3MA2L PY-SC4MA1/PYBSC4MA1/PYBSC4MA1L PYBSC4MA2/PYBSC4MA2L	64	64	64	64
SASアレイコントローラカード	PY-SR3FB/PYBSR3FB/PYBSR3FBL PY-SR4FA/PYBSR4FA/PYBSR4FAL	32	16	16	32
SASアレイコントローラカード	PY-SR3C52/PYBSR3C52L PY-SR3C55/PYBSR3C55L PY-SR3C58/PYBSR3C58L	128	16	16	64
SASアレイコントローラカード	PY-SR4C63/PYBSR4C63/PYBSR4C63L/PYBSR4C6P/PYBSR4C6PL PY-SR4C6/PYBSR4C6/PYBSR4C6L/PYBSR4C6LL PYBSR4C62/PYBSR4C62L PY-SR4C6E/PYBSR4C6E/PYBSR4C6EL	120	16	16	240
SASアレイコントローラカード	PY-SR4MA1/PYBSR4MA1/PYBSR4MA1L PY-SR4MA2/PYBSR4MA2L PY-SR4MA3/PYBSR4MA3L PYBSR4MA4/PYBSR4MA4L	64	64	64	64

(*1) 構成可能なRAIDレベルは使用するストレージコントローラの仕様に基づきます。

- (6) ホットスペアディスクは対象RAIDドライブグループと同じ内蔵ストレージで設定してください。
異なる内蔵ストレージを使用した複数のRAIDドライブグループが存在する構成において、各々のRAIDドライブグループをホットスペアの対象とするためには、各々のRAIDドライブグループに対して、ホットスペアを最低1台設定する必要があります。

SASコントローラカードの接続方法について

・SASコントローラカードは、使用OS(OS機能)により、接続可能なストレージ構成、接続方式が異なります。詳細につきましては、下表および各機種の「内蔵ストレージ構成時の注意事項」の「■B：使用OSに応じたストレージコントローラと内蔵ストレージの接続方法を確認」をご参照ください。

■接続可能方式

	使用OS	Windows Server 2022/2019	VMware	-(OS非依存)
	OS機能	記憶域スペースダイレクト (*1)(*2)	vSAN (*3)(*4)	左記以外
接続方式	非アレイ(バススルー)	○	○	○ (*7)
	非アレイ(バススルー) +アレイ接続	○ (*6)	×	○ (*7)
	アレイ接続 (*5)	×	×	○

○：サポート、×：非サポート

(*1) 複数の物理サーバに内蔵されたストレージを1つの仮想的な共有ストレージ(CSV)や、フェールオーバー クラスタリングなどに利用できる機能です。

詳細につきましては、下記マイクロソフト社ホームページをご参照ください。

■マイクロソフト社公開ホームページ「記憶域スペースダイレクトの概要」： <https://learn.microsoft.com/ja-jp/azure-stack/hci/concepts/storage-spaces-direct-overview>

(*2) Windows Server 2022 / 2019 Datacenterで提供されている「記憶域スペースダイレクト(Storage Spaces Direct)機能」を、PRIMERGYで利用するために必要なハードウェアおよび留意事項については以下の情報をご参照ください。

■当社ホームページ「Windows サポート&サービス」： <https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/software/windows/support/>

(*3) 複数の物理サーバに内蔵されたストレージを1つの仮想的な共有ストレージ(vSAN データストア)として利用する機能です。別途有償のVMwareソフトウェアライセンスの購入が必要となります。VMware/vSANの対応状況および機能詳細につきましては、下記をご参照ください。

■当社ホームページ「VMwareのサポート情報」： <https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/support/>

■グエイムウェア社公開ホームページ「vSAN」： <https://www.vmware.com/jp/products/vsan.html>

(*4) SASコントローラカード(PSAS CP 2100-8i、vSAN専用)[PYBSC3MAWL]を使用する必要があります。

(*5) アレイ接続は最大14台です(SASコントローラカード(PSAS CP 2100-8i/PSAS CP 2200-16i)[PY-SC3MA2/PYBSC3MA2/PY-SC4MA1/PYBSC4MA1/PYBSC4MA1L]を除く)。

(*6) システム(OS)領域のみアレイ接続が可能です。アレイ接続したデータ領域に、記憶域スペースダイレクトは利用できません。

(*7) SASコントローラカード(PSAS CP 2100-8i/PSAS CP 2200-16i)[PY-SC3MA2/PYBSC3MA2/PY-SC4MA1/PYBSC4MA1/PYBSC4MA1L]のみサポート。

RAIDロジカルドライブのライトキャッシュ設定とFBU稼働状況に応じた動作仕様

キャッシュメモリが搭載されているSASアレイコントローラカードは、RAIDロジカルドライブごとにライトキャッシュを使用する設定にすることで、同キャッシュメモリをストレージへの書き込みキャッシュとして使用し、特にハードディスクドライブを使用する構成において書き込み性能を向上させることが可能です。

ライトキャッシュを使用する場合は、サーバの電源障害などからキャッシュメモリ上のデータを保護するため、SASアレイコントローラカードのオプションであるフラッシュバックアップユニット(FBU)やバッテリーバックアップユニット(BBU)を搭載するか、無停電電源装置UPS等でサーバを使用してください。

■ライトキャッシュ設定と動作について (PRAID EP5xx / 6xx)

本製品ではロジカルドライブの設定値(Default Write Mode)と、FBU/BBUの状態に応じ、ライトキャッシュの有効・無効(Current Write Mode)が切り替わります。

ロジカルドライブの設定 (Default Write Mode)	FBU/BBUの状態	ロジカルドライブの動作 (Current Write Mode)	ライトキャッシュ
Write Through	—	Write Through	無効
Write Back	正常	Write Back	有効
	なし/故障/充電中	Write Through	無効
Always-Write Back	—	Write Back	有効

■RAID設定サービスおよびHDD/SSDをカスタムメイド手配した場合のロジカルドライブ設定値 (PRAID EP5xx / 6xx)

同時にFBU/BBUを手配した場合はWrite Back、FBU/BBUを手配されない場合はWrite Throughにてロジカルドライブを設定いたします。

■ライトキャッシュ設定と動作について (PRAID EP 325x)

本製品ではロジカルドライブの設定値(Acceleration Method)およびアレイコントローラの設置値(No Battery Write Cache)と、FBU/BBUの状態に応じ、ライトキャッシュの有効・無効が切り替わります。

ロジカルドライブの設定 (Acceleration Method)	FBUの状態	アレイコントローラの設定 (No Battery Write Cache)	ライトキャッシュ
I/O Bypass (*1)	—	—	無効
NONE	—	—	無効
Controller Cache	正常	—	有効
	なし/故障/充電中	Enabled	有効
	なし/故障/充電中	Disabled(出荷時設定)	無効

(*1) デバイスドライバからストレージへのI/Oリクエストをアレイコントローラのファームウェアを経由せず直接ストレージに届けます。SSDを使用する場合のみ選択可能です。

■RAID設定サービスをカスタムメイド手配した場合のロジカルドライブ設定値 (PRAID EP325x)

- ・同時にSSDを手配した場合は、FBUの手配有無に関わらずI/O Bypassにてロジカルドライブを設定いたします。
- ・同時にHDDを手配した場合は、FBUの手配有無に関わらずController Cacheにてロジカルドライブを設定いたします。

■RAID設定サービスをカスタムメイド手配した場合のロジカルドライブ設定値 (PSAS CP2100-8i/PSAS CP2200-16i)

- ・同時にSSDを手配した場合は、I/O Bypassにてロジカルドライブを設定いたします。
- ・同時にHDDを手配した場合は、NONEにてロジカルドライブを設定いたします。

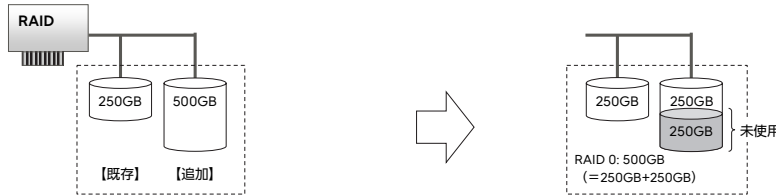
※ FBU/BBU使用時の注意事項

- ・BBUは、サーバ稼働中に充電されるため、稼働開始直後など充電量が不足している場合、および定期的なリキャリブレーション(調整のための充放電サイクル)実行中に充電量が不足している場合は、充電完了までの間、Write Back設定時においても、動作は「Write Through」となります。
- ・FBUは、稼働開始直後など充電量が不足している場合、充電完了までの間、ライトキャッシュ有効設定時においても、一時的にライトキャッシュは無効にて動作します。リキャリブレーション中においてもライトキャッシュは有効に維持されます。
- ・充電完了までの目安は、FBU：最大10分程度、BBU：最大12時間程度となります。

異なる容量のドライブ増設時のアレイ構築について

- アレイ構築の際、RAIDドライブグループ内のドライブには同一型名品の使用を推奨していますが、以下の点を留意いただくことで異なる容量のドライブによるアレイ構築が可能です。

(1) RAID0 or RAID1の場合

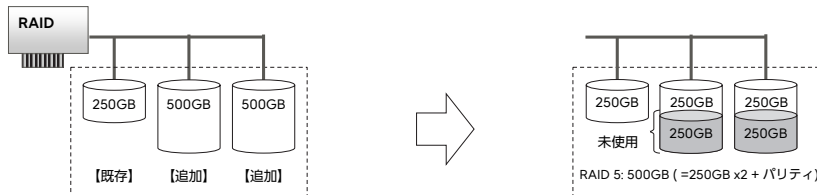


ストレージコントローラの仕様として、アレイを構成するために指定したドライブ中(RAIDドライブグループ)、最小容量となるドライブの容量をベースにロジカルドライブが構築されます。

既存ドライブが250GB、追加するドライブの容量が500GBの場合、追加ドライブ中の250GBのみが、ロジカルドライブとして使用されます。

このため、RAID0(ストライピング)を指定した場合には、最大500GBのロジカルドライブが、RAID1(ミラー)を指定した場合、最大250GBのロジカルドライブが構築できます。追加ドライブの残り250GBは、未使用となりロジカルドライブとして使用できません。

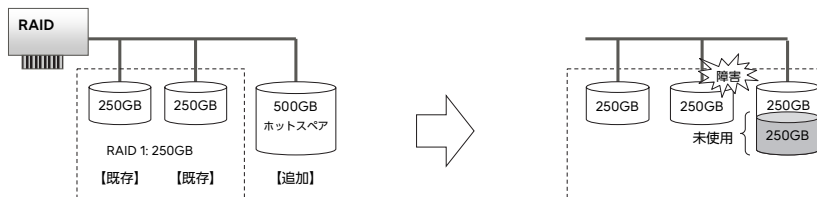
(2) RAID5の場合



既存ドライブ250GBに、2台の500GBドライブを追加しRAID5を構築する場合も、上記のRAID0, 1を構築する場合と同様に、最小容量のドライブ(250GB)をベースにロジカルドライブが構築されます。このため、RAID5を指定した場合、最大500GBのロジカルドライブを構築できます。追加ドライブの残り250GBは、未使用となりロジカルドライブとして使用できません。

- アレイを構成しているドライブより大きな容量のドライブであれば、ホットスペアドライブとして使用することができます。

(3) ホットスペアドライブとして追加した場合



250GBのドライブ2台によるRAID1(ミラー)に、ホットスペアドライブとして500GBドライブを設定した場合、障害が発生した際は、スペアドライブ中の250GBを使用してリビルドが行われます。残り250GBは未使用となります。

Intel VROC (VMD NVMe RAID) について

本項記載の留意事項に関する詳細は、Intel Virtual RAID on CPU (Intel VROC) Software User Guideをご覧ください。

Intel VROC (VMD NVMe RAID)は、Intel Xeonプロセッサに内蔵されたVMDコントローラとPCIe SSDとを、PCHを経由せず直接接続し、CPUがPCIe SSDを制御するソリューションです。本機能を使用するためには、サーバ本体のBIOS設定より、VMDコントローラ(VMD Config)を有効(Enable)に変更する必要があります。

Intel VROCアップグレードキー(Premium)[PY-RLVR02/PYBRLVR02]を接続することで、VMDコントローラに接続されたPCIe SSDを使用してRAIDアレイを構築することができます。

■VMD Domain(*)およびロジカルドライブからのOS起動要件

Intel VROC (VMD NVMe RAID)からのオペレーティングシステムの起動は、一つのVMD Domainに属するPCIe SSDを使用したロジカルドライブのみサポートされます。複数のVMD Domainに属するPCIe SSDを使用したロジカルドライブからは、オペレーティングシステムを起動することはできません。

(*)一つのIntel Xeonプロセッサには複数のVMDコントローラが内蔵されており、一つのVMDコントローラには複数のPCIe SSDが接続されます。

この「一つのVMDコントローラに接続されたPCIe SSDのグループ」を「VMD Domain(領域)」と呼びます。

各PCIe SSDがどのVMD Domainに属しているかは、ロジカルドライブ作成時のPCIe SSDの選択時に確認することができます。

■複数のCPUをまたがるロジカルドライブのI/O性能について

複数のCPUに接続されたPCIe SSD同士を使用して一つのロジカルドライブを作成した場合、一つのCPUに接続されたPCIe SSDを使用した場合と比較し、I/O性能は顕著に低下します。

有寿命部品関連事項

有寿命部品のSSDについて

本製品は、書き込み寿命を有するメモリを含んだ「有寿命部品」となります。

お客様のご使用方法により、保証期間内またはSupportDesk契約期間内にメモリの書き込み寿命を迎える場合があります。

製品の保証は、当社の定める製品保証期間/SupportDesk契約終了日、または書き込み保証値に達した場合のいずれか早い時点で終了となります。

ご使用中に書き込み保証値に達し、寿命に至った場合(*)、製品保証期間/SupportDesk契約有無に関わらず、修理をお受けすることはできませんので、お客様に製品を再度ご購入いただく必要があります。

(*) 当該製品が書き込み寿命を迎えた後もご使用を続けた結果、故障に至った場合も同様の対応となります。

定期的に状態をご確認いただき、製品の書き込みデータ量に達する前(寿命到達前)に当社担当営業、もしくは販売パートナーまで再購入のご相談をくださいますようお願いいたします。

また、SupportDesk契約の内容によっては、製品の再購入により、SupportDesk契約の更新・変更手続きが必要な場合もありますので、こちらにつきましても、当社担当営業、もしくは販売パートナーまでご相談くださいますようお願いいたします。

当社へ保守作業をご依頼いただく際には、あらかじめ寿命に至っているかどうかをご確認のうえ、お申込みください。

SSDの書き込み保証値について

本製品の状態は、管理ツールを使用して確認できます。

本製品の書き込み保証値と管理ツールの詳細な操作方法については、下記の当社公開ホームページをご参照ください。

当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/support/parts/#parts2>)

管理ツールおよびドライバは、当社ホームページ：「ダウンロード」より入手できます。

当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>)

SATA SSD[有寿命部品]をアレイ構成で使用する場合について

SATA SSD[有寿命部品]をオンボードSATAコントローラ(Embedded MegaRAID)に接続し、アレイ構成にてご使用になる場合は、必ずソフトウェアRAID用ドライバをご確認のうえ、ご使用ください。

OS	ドライバ(ドライバキット)名称とバージョン
Windows全般	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Windows Driver バージョン：V17.01.2016.0216以降
Red Hat Enterprise Linux 9.4 (for Intel64)	オンボードSATAコントローラに接続したアレイ構成は、現在制限です
Red Hat Enterprise Linux 9.3 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2023.0626.4fts - 1.e19.3 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 9.2 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.4fts - 4.e19.2 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 9.1 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.4fts - 3.e19.1 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 9.0 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.4fts - 1.e19.0 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 8.9 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2023.0626.4fts - 1.e18.9 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 8.8 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.4fts - 4.e18.8 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 8.7 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.4fts - 3.e18.7 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 8.6 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.4fts - 1.e18.6 - 000以降
Red Hat Enterprise Linux 8.5 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：V18.02.2021.0831以降
Red Hat Enterprise Linux 8.4 (for Intel64)	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：V18.02.2021.0831以降
SUSE Linux Enterprise Server 15 Service Pack 5 for AMD64 & Intel64	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2023.0626.6fts - 1 - 000以降
SUSE Linux Enterprise Server 15 Service Pack 4 for AMD64 & Intel64	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：18.02.2022.0707.6fts - 1 - 000以降
SUSE Linux Enterprise Server 15 Service Pack 3 for AMD64 & Intel64	ソフトウェアRAID Embedded MegaRAID Linux Driver バージョン：V18.02.2021.0831以降

SATA SSD[有寿命部品]をオンボードSATAコントローラ(Intel VROC SATA)に接続し、アレイ構成にてご使用になる場合は、必ずソフトウェアRAID用ドライバをご確認のうえ、ご使用ください。

OS	ドライバ(ドライバキット)名称とバージョン
Windows全般	Intel(R) Virtual RAID on CPU (Intel(R) VROC) Windows Driver
Linux全般	初版から対応済み

メモリ関連事項

OSにおける最大CPU数/使用可能なメモリ容量について

OSにより使用可能なメモリ容量が異なりますので、ご注意願います。使用可能メモリ容量は以下のとおりです
(搭載可能なメモリ容量およびサポートOSは機種により異なります)。

OS略称	最大CPU数 (*1)	使用可能メモリ容量
WS22S	無制限(～64)	48TB
WS22D	無制限(～64)	48TB
WS22E	～10(～1)	48TB
WSI22SS	無制限(～64)	48TB
WS19S	無制限(～64)	24TB
WS19D	無制限(～64)	24TB
WS19E	(～2)	64GB
WSI19SS	無制限(～64)	24TB
RHEL9(Intel64)	～1792	48TB
RHEL8(Intel64)	～768	24TB
SLES 15 (x86_64)	～8192	64TB
vS8.0	～960 (*2)	24TB
vS7.0	～896 (*2)	24TB

(*1) ハイパースレッディング・テクノロジー機能による論理CPU、デュアルコアCPU、クアッドコアCPU、6コア/8コア/10コア/12コア/16コア/18コア/20コア/24コア/28コア/32コア/36コア/40コア/44コア/48コア/52コア/56コア/60コア/64コアCPUのCPUコアをCPUの数としてカウントします。
()内は物理CPU数です。

(*2) Update により、最大CPU数が異なります。詳細につきましては、下記をご参照ください。

■ ヴィエムウェア社公開ホームページ「VMware Configuration Maximums」 : <https://configmax.esp.vmware.com/home>

※メモリの混載条件は機種によって異なります。詳細については、各機種の「メモリの搭載について」を参照ください。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

メモリの搭載および動作モードについて

メモリ動作モードには、インディペンデントモード、ミラードチャンネルモード、HBM-ONLYモード、HBM キャッシュモード、HBM フラットモード、HBM フラット+ミラードチャンネルモードの6種類があります。メモリ動作モードの選定でメモリ構成や搭載条件が決められ、性能・動作が変わります。CPU1、CPU2は同じメモリモードで動作します。メモリ構成の詳細はモデルによって異なります。詳細は以下を参照ください。

■RX1330 M6/TX1320 M6/TX1330 M6の場合

- (1) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB RDIMM×1))では、SDCC機能は未サポート。
- (2) CPU 1個につき、1枚、2枚、3枚、4枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

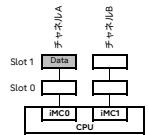
- ・搭載制限
- 同一メモリ型名のみ手配可能です。

■1CPUあたりの搭載ルール

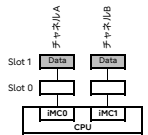
CPU		CPUn	
IMC		0	1
DDR CH		A	B
SLOT		1	0
		1	0
Socket		1A	2A
		1B	2B
BTO	#DIMMs		
○	1	D	
○	2	D	D
○	3	D	D
○	4	D	D

○：カスタムメイド手配可能、D：メモリ搭載位置

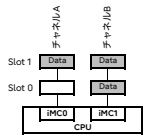
<1CPUあたり1DIMMの場合>



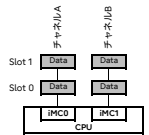
<1CPUあたり2DIMMの場合>



<1CPUあたり3DIMMの場合>



<1CPUあたり4DIMMの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■RX1440 M2の場合

【DIMMの搭載位置】

・搭載制限

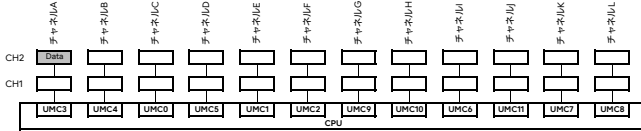
- 同一メモリ型名のみ手配可能です。
- CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8, 10, 12, 16, 20, 24xCPU個数)

■1CPUあたりの搭載ルール

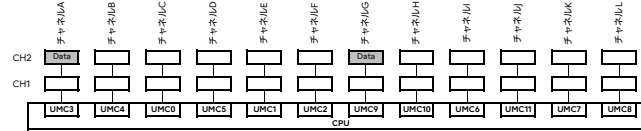
2DPC with 1 CPU												
UMC							CPU					
Mem ch	F	E	D	C	B	A	9	10	6	11	7	8
DIMM SLOT	2	1	2	1	2	1	T	Z	1	Z	1	Z
1												
2												
4												
6												
8												
10												
12												
16												
20												
24												

D : メモリ搭載位置

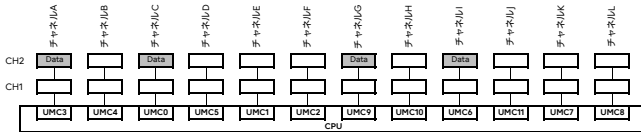
<1CPUあたり1DIMMの場合>



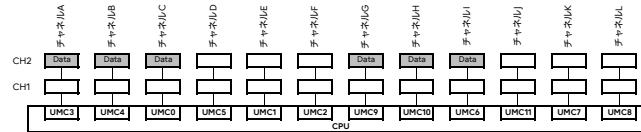
<1CPUあたり2DIMMの場合>



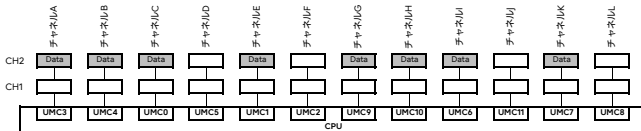
<1CPUあたり4DIMMの場合>



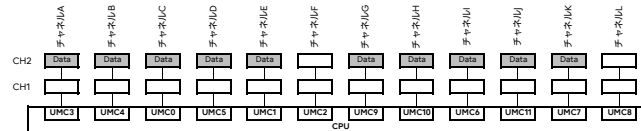
<1CPUあたり6DIMMの場合>



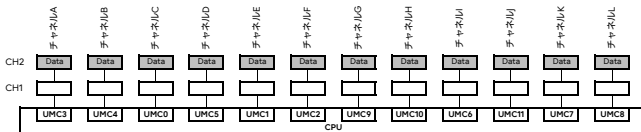
<1CPUあたり8DIMMの場合>



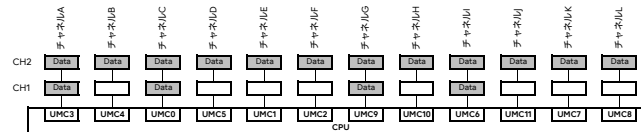
<1CPUあたり10DIMMの場合>



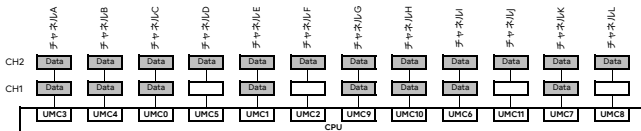
<1CPUあたり12DIMMの場合>



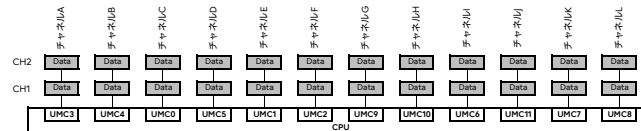
<1CPUあたり16DIMMの場合>



<1CPUあたり20DIMMの場合>



<1CPUあたり24DIMMの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■RX2450 M2の場合

【DIMMの搭載位置】

搭載制限

- BT0オーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
- CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8, 10, 12xCPU個数)
- 異なる種類のDIMM(RDIMMx4/RDIMMx8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

UMC	2	1	5	0	4	3	CPU											
Mem ch	F	E	D	C	B	A	G	H	I	J	K	L						
DIMM SLOT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1							D											
2								D										
4									D									
6										D								
8											D							
10												D						
12													D					

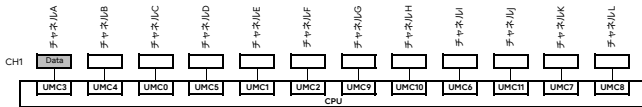
D : メモリ搭載位置

■2CPUあたりの搭載ルール

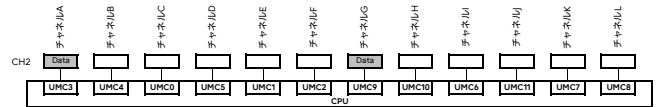
UMC		2 1 5 0 4 3					1DPC with 2 CPUs												
Mem ch		F E D C B A					CPU1				CPU2								
DIMM SLOT		1 1 1 1 1					1 1 1 1 1 1 1 1				1 1 1 1 1 1 1 1								
2																			
4																			
8																			
12																			
16																			
20																			
24																			

D : メモリ搭載位置

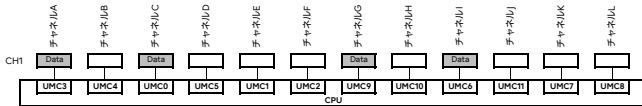
<1CPUあたり1DIMMの場合>



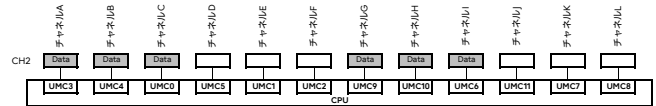
<1CPUあたり2DIMMの場合>



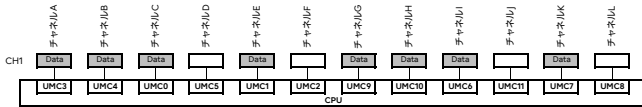
<1CPUあたり4DIMMの場合>



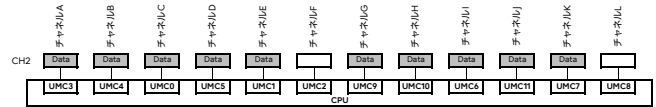
<1CPUあたり6DIMMの場合>



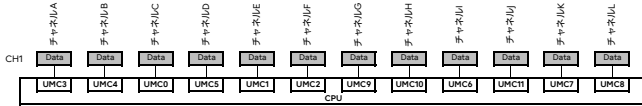
<1CPUあたり8DIMMの場合>



<1CPUあたり10DIMMの場合>



<1CPUあたり12DIMMの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■RX2530 M7/RX2540 M7の場合

【インディペンデントモード/HBM-ONLYモード/HBM キャッシュモード/HBM フラットモード】

- (1) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB RDIMM×1)/メモリ-32GB(32GB RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB RDIMM×1)/メモリ-64GB(32GB RDIMM×1))では、SDDC機能は未サポート。
 - (2) CPU 1個につき、1枚、2枚、4枚、6枚、8枚、12枚、16枚のメモリを搭載可能です。
- ただし、HBM-ONLYモード時は、メモリ搭載不可。HBMキャッシュモード時は、CPUあたり4枚、8枚、16枚のメモリ構成のみ可能。HBMフラットモード時は、CPUあたり1枚、2枚、4枚、8枚、16枚のメモリ構成のみ可能。メモリ-96GB(96GB RDIMM×1)選択時は、CPUあたり8枚、16枚のメモリ構成のみ可能。

【DIMMの搭載位置】

- 搭載制限
 - BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
 - CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8, 12, 16×CPU個数)
- 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

CPU	CPU0												CPUタイプ							
	0			1			2			3			HBM以外	HBM (*1)						
iMC	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	インディペンデントモード	HBM-ONLYモード	HBMキャッシュモード	HBMフラットモード	
SLOT	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1				
Socket	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H				
#DIMMs	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H				
0																				
1	D																✓			✓
2	D																✓			✓
4	D			D													✓		✓	✓
6	D		D	D													✓		✓	✓
8	D		D	D	D												✓		✓	✓
12	D	D	D	D	D	D											✓		✓	✓
16	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D					✓		✓	✓

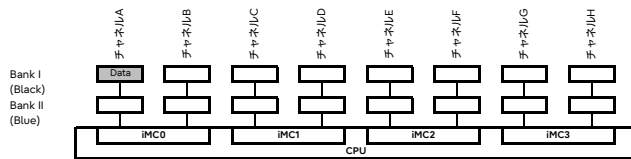
■物理CPU2個構成時

CPU	CPU0												CPU1												CPUタイプ											
	0			1			2			3			0			1			2			3			HBM以外	HBM (*1)										
iMC	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	インディペンデントモード	HBM-ONLYモード	HBMキャッシュモード	HBMフラットモード		
SLOT	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1				
Socket	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H	1J	2J	1K	2K	1L	2L	1M	2M	1N	2N	1P	2P	1Q	2Q	1R	2R				
#DIMMs	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H	1J	2J	1K	2K	1L	2L	1M	2M	1N	2N	1P	2P	1Q	2Q	1R	2R				
0																																				
2(1+1)	D																D												✓				✓			
4(2+2)	D																D												✓				✓			
8(4+4)	D			D													D												✓		✓		✓			
12(6+6)	D		D	D													D												✓		✓		✓			
16(8+8)	D		D	D	D												D												✓		✓		✓			
24(12+12)	D	D	D	D	D	D											D	D	D	D									✓		✓		✓			
32(16+16)	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	✓		✓		✓			

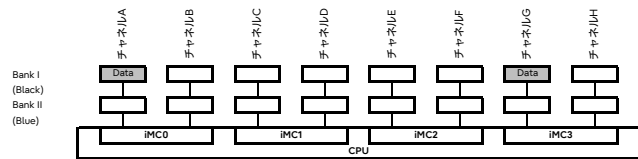
D : メモリ搭載位置

(*1) HBM対応のCPUは、Xeon Max 94xx プロセッサとなります。

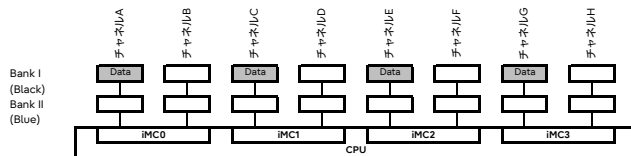
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



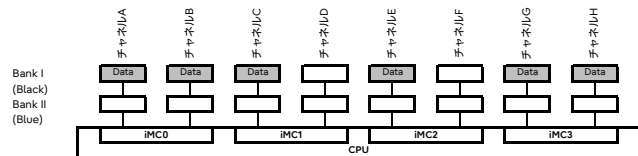
<1CPUあたり2DIMMsの場合>



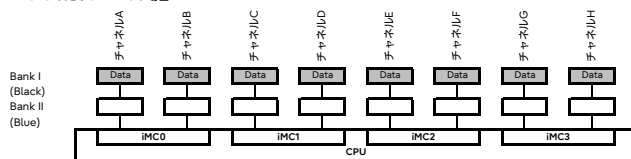
<1CPUあたり4DIMMsの場合>



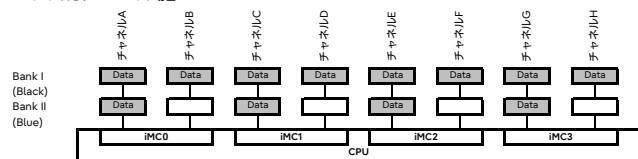
<1CPUあたり6DIMMsの場合>



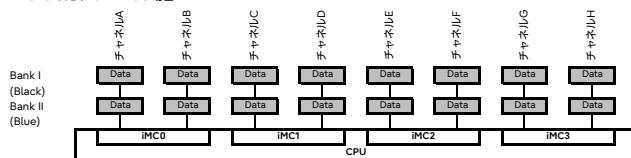
<1CPUあたり8DIMMsの場合>



<1CPUあたり12DIMMsの場合>



<1CPUあたり16DIMMsの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

【ミラードチャンネルモード/HBM フラット+ミラードチャンネルモード】

- (1) ミラーとなるDIMMは、同一BANK内である必要があります。
- (2) 使用可能なメモリ容量は、搭載メモリ容量の1/2となります。
- (3) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1)/メモリ-16GB(16GB 5600 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1)/メモリ-32GB(32GB 5600 RDIMM×1))では、SDDC機能は未サポートです。
- (4) ミラードチャンネルモード設定サービスまたはHBM フラット+ミラードチャンネルモード設定サービスを選択し、カスタムメイドにてメモリを搭載する場合、同一型名メモリのみ搭載可能です。
- (5) CPU 1個につき、8枚、16枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

・搭載制限

- BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
- CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=8, 16xCPU/個数)
- 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

CPU	CPU0												CPUタイプ					
	0				1				2				3				HBM 以外	HBM (*1)
iMC																		
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1		
SLOT	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1		
Socket	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H	ミラードチャンネル モード	HBMフラット+ ミラードチャンネル モード
#DIMMs																		
8	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		✓
16	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		✓

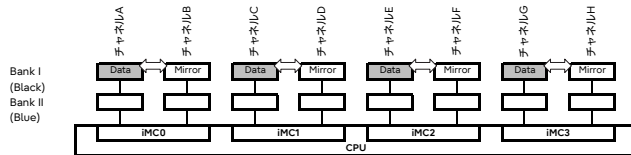
■物理CPU2個構成時

CPU	CPU0												CPU1												CPUタイプ										
	0				1				2				3				0				1				2				3				HBM 以外	HBM (*1)	
iMC																																			
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1			
SLOT	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1			
Socket	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H	1I	2I	1K	2K	1L	2L	1M	2M	1N	2N	1P	2P	1Q	2Q	1R	2R	ミラードチャンネル モード	HBMフラット+ ミラードチャンネル モード	
#DIMMs																																			
16(8+8)	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		✓	
32(16+16)	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		✓

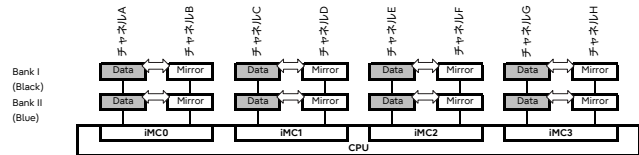
D : メモリ搭載位置

(*1) HBM対応のCPUは、Xeon Max 94xx プロセッサとなります。

<1CPUあたり8DIMMsの場合>



<1CPUあたり16DIMMsの場合>



■RX4770 M7の場合

【インディペンデントモード】

- (1) Single Rank×8(メモリー-16GB(16GB 4800 RDIMM×1))-Dual Rank×8(メモリー-32GB(32GB 4800 RDIMM×1))では、SDCC機能は未サポート。
- (2) CPU 1個につき、1枚、2枚、4枚、6枚、8枚、12枚、16枚のメモリーを搭載可能です。

ただし、メモリー-96GB(96GB 5600 RDIMM×8)選択時は、CPUあたり8枚、16枚のメモリー構成のみ可能。

【DIMMの搭載位置】

・搭載制限

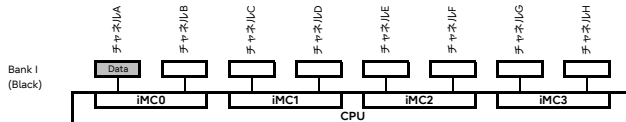
- BTOオーダー時、同一メモリー型名のみ手配可能です。
- CPU毎に同一メモリー数のみ手配可能です。(メモリー数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8, 12, 16×CPU個数)
- 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

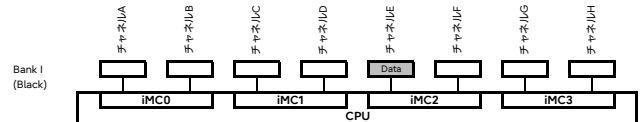
CPU	CPU _n															
	0				1				0				1			
iMC	0				1				0				1			
DDR CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
SLOT	0A	1A	0B	1B	0C	1C	0D	1D	0E	1E	0F	1F	0G	1G	0H	1H
Socket	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D	1E	2E	1F	2F	1G	2G	1H	2H
BTO	#DIMMs															
○	1	D								D						
○	1															
○	1			D												
○	1											D				
○	2	D											D			
○	2									D						
○	4	D											D			
○	4									D						
○	6	D											D			
○	6									D						
○	6	D		D									D			
○	6									D						
○	6	D		D									D			
○	6									D						
○	8	D		D									D			
○	8									D						
○	12	D		D									D			
○	12									D						
○	12	D		D									D			
○	12									D						
○	16	D		D									D			
○	16									D						
○	16	D		D									D			
○	16									D						

○：カスタムメイド手配可能、D：メモリー搭載位置

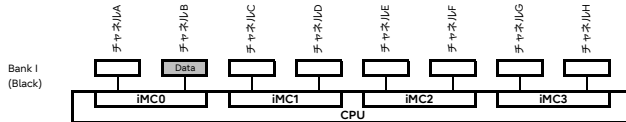
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



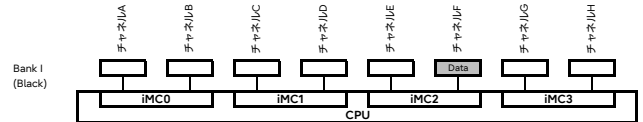
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



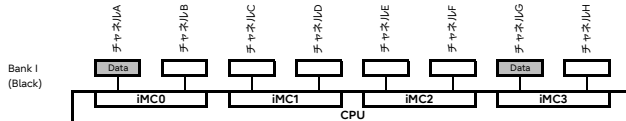
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



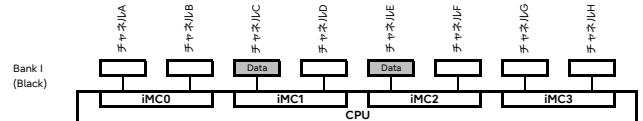
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



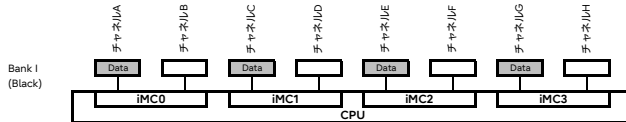
<1CPUあたり2DIMMの場合>



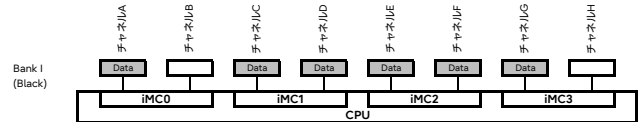
<1CPUあたり2DIMMの場合>



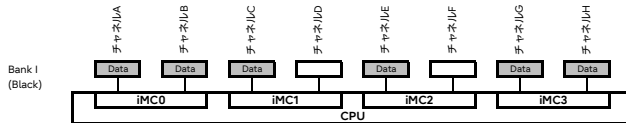
<1CPUあたり4DIMMの場合>



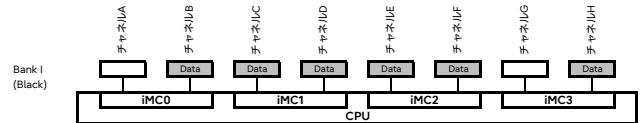
<1CPUあたり4DIMMの場合>



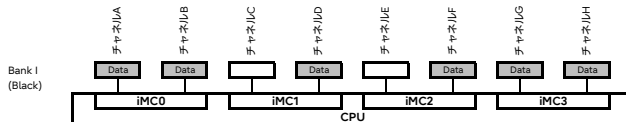
<1CPUあたり6DIMMの場合>



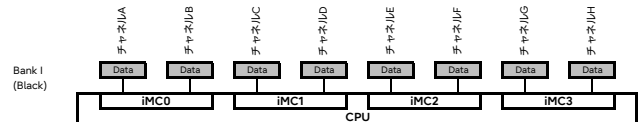
<1CPUあたり6DIMMの場合>



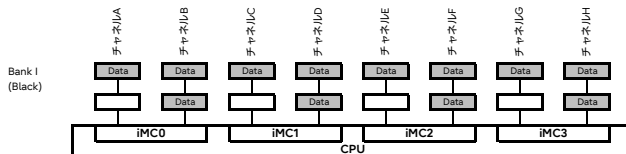
<1CPUあたり6DIMMの場合>



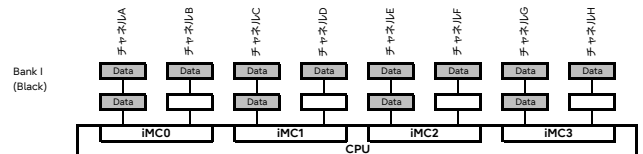
<1CPUあたり6DIMMの場合>



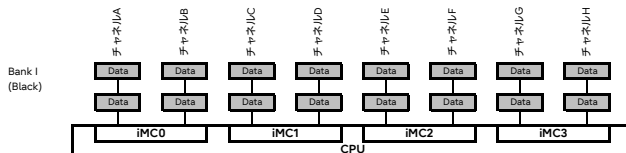
<1CPUあたり12DIMMの場合>



<1CPUあたり12DIMMの場合>



<1CPUあたり16DIMMの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

【ミラードチャンネルモード】

- (1) ミラーとなるDIMMは、同一BANK内である必要があります。
- (2) 使用可能なメモリ容量は、搭載メモリ容量の1/2となります。
- (3) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1))では、SDCC機能は未サポートです。
- (4) ミラードチャンネルモード設定サービスを選択し、カスタムメイドにてメモリを搭載する場合、同一型名メモリのみ搭載可能です。
- (5) CPU1個につき、8枚、16枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

・搭載制限

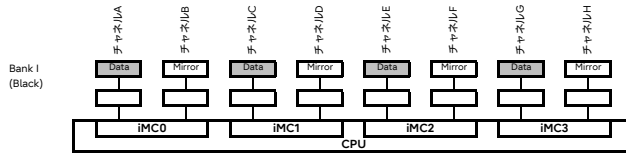
- BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
- CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=8, 16 x CPU個数)
- 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

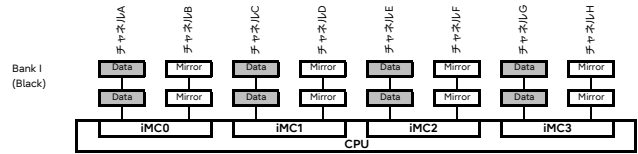
CPU	CPU0				CPU1			
	0	1	2	3	0	1	2	3
iMC								
DDR CH	0	1	0	1	0	1	0	1
SLOT	0	0	0	0	0	0	0	0
Socket	1A	2A	1B	2B	1C	2C	1D	2D
DIMMs								
8	D	D	D	D	D	D	D	D
16	D	D	D	D	D	D	D	D

D: メモリ搭載位置

<1CPUあたり8DIMMの場合>



<1CPUあたり16DIMMの場合>



■GX2560 M7の場合

【ノーマルモード】

【DIMMの搭載位置】

・搭載制限

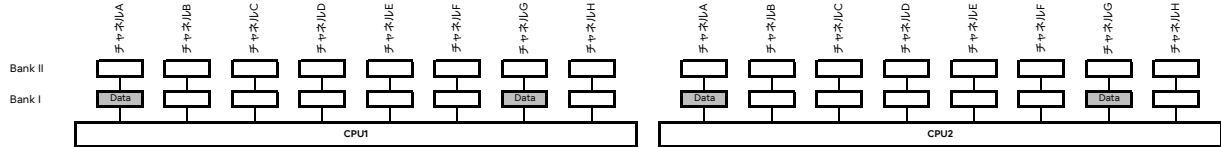
- BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
- 以下のDIMM構成のみサポートです。
- 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8)は混在搭載することはできません。

■物理CPU2個構成時

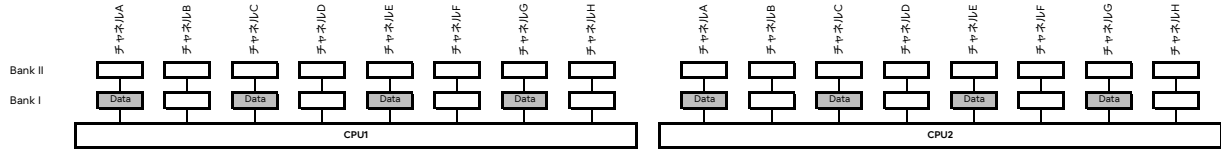
CPU		CPU1																CPU2															
Socket #DIMMs		A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	F1	F2	G1	G2	H1	H2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	F1	F2	G1	G2	H1	H2
<input type="radio"/>	4	D																D															
<input type="radio"/>	8	D							D									D															
<input type="radio"/>	12	D					D		D									D															
<input type="radio"/>	16	D		D			D		D									D		D													
<input type="radio"/>	32	D	D	D	D		D	D	D	D								D	D	D	D		D	D	D	D							

○：カスタムメイド手配可能、D：メモリ搭載位置

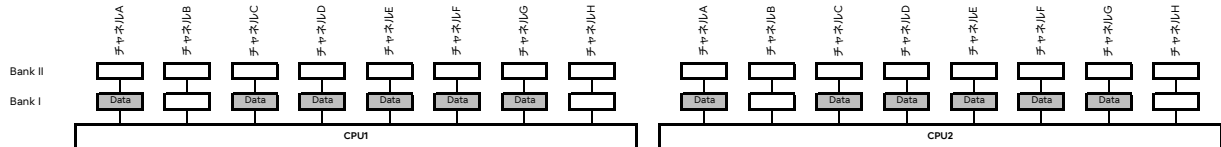
<2CPUあたり4DIMMの場合>



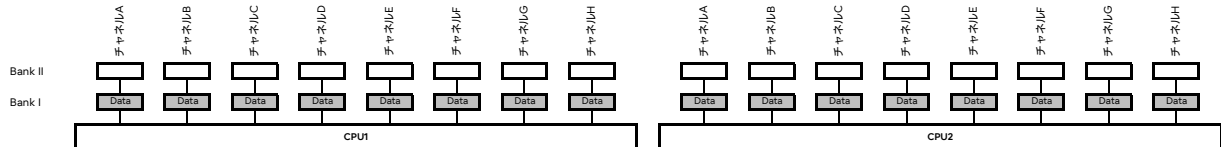
<2CPUあたり8DIMMの場合>



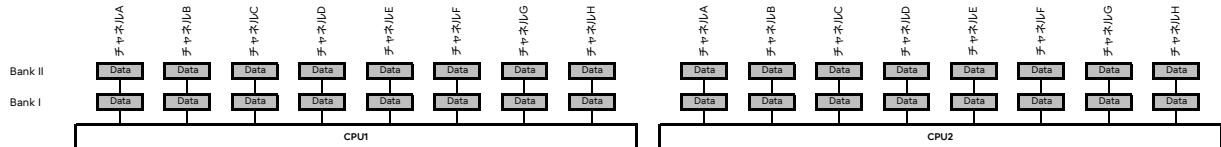
<2CPUあたり12DIMMの場合>



<2CPUあたり16DIMMの場合>



<2CPUあたり32DIMMの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■TX2550 M7の場合

【インディペンデントモード】

- Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1)/メモリ-16GB(16GB 5600 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1)/メモリ-32GB(32GB 5600 RDIMM×1))では、SDDC機能は未サポート。
- CPU 1個につき、1枚、2枚、4枚、6枚、8枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

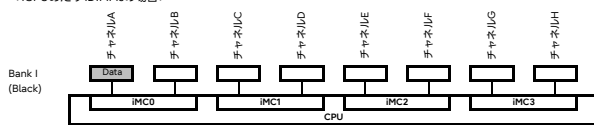
- 搭載制限
 - BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
 - CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8×CPU個数)
 - 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

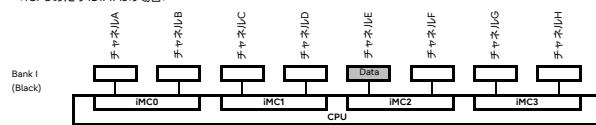
CPU	CPU0			
	0	1	2	3
IMC	0	1	0	1
DDR CH	0	1	0	1
SLOT	0	0	0	0
Socket	1A	1B	1C	1D
#DIMMs	1A	1B	1C	1D
BTO	1	2	4	8
○	D			
○		D		
○			D	
○				D
○	D	D	D	D
○	D	D	D	D
○	D	D	D	D
○	D	D	D	D
○	D	D	D	D
○	D	D	D	D
○	D	D	D	D

○：カスタムメイド手配可能、D：メモリ搭載位置

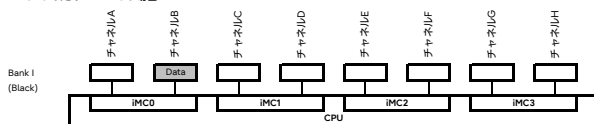
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



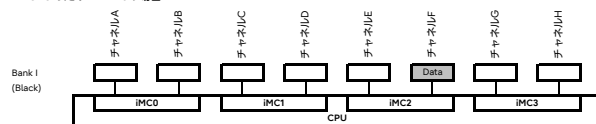
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



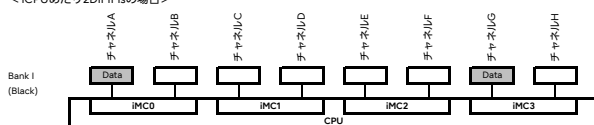
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



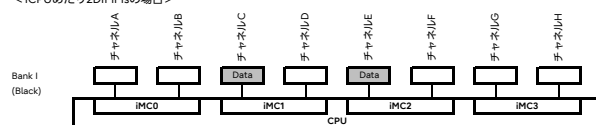
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



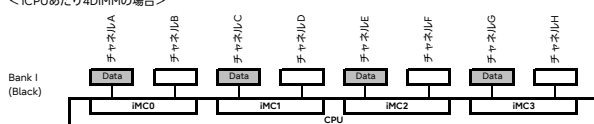
<1CPUあたり2DIMMsの場合>



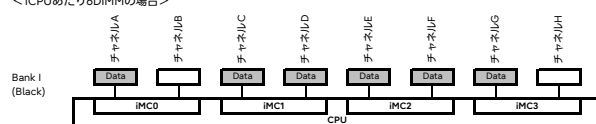
<1CPUあたり2DIMMsの場合>



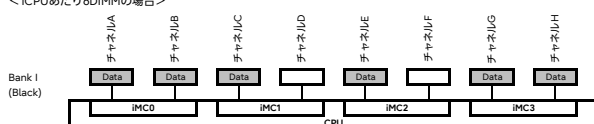
<1CPUあたり4DIMMsの場合>



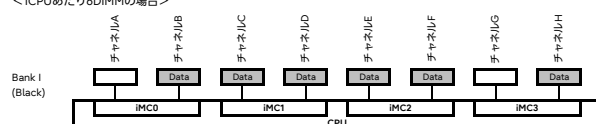
<1CPUあたり4DIMMsの場合>



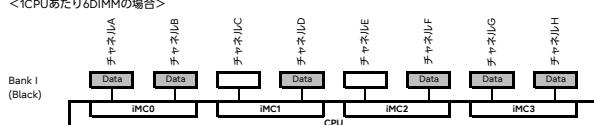
<1CPUあたり6DIMMsの場合>



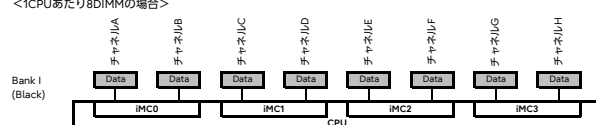
<1CPUあたり6DIMMsの場合>



<1CPUあたり6DIMMsの場合>



<1CPUあたり8DIMMsの場合>



【ミラードチャンネルモード】

- ミラーとなるDIMMは、同一BANK内である必要があります。
- 使用可能なメモリ容量は、搭載メモリ容量の1/2となります。
- Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1)/メモリ-16GB(16GB 5600 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1)/メモリ-32GB(32GB 5600 RDIMM×1))では、SDDC機能は未サポートです。
- ミラードチャンネルモード設定サービスを選択し、カスタムメイドにてメモリを搭載する場合、同一型名メモリのみ搭載可能です。
- CPU 1個につき、8枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

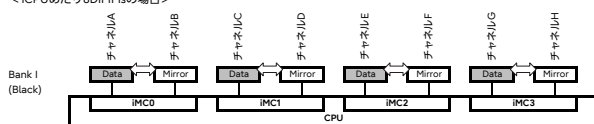
- 搭載制限
 - BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
 - CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=8×CPU個数)
 - 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

CPU	CPU0			
	0	1	2	3
IMC	0	1	0	1
CH	0	1	0	1
SLOT	0	0	0	0
Socket	1A	1B	1C	1D
#DIMMs	1A	1B	1C	1D
BTO	8			
D	D	D	D	D

D：メモリ搭載位置

<1CPUあたり8DIMMsの場合>



<1CPUあたり8DIMMsの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■CX2550 M7の場合

【インディペンデントモード/HBM-ONLYモード/HBM キャッシュモード/HBM フラットモード】

- (1) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1))では、SDDC機能は未サポート。
- (2) CPU 1個につき、1枚、2枚、4枚、6枚、8枚のメモリを搭載可能です。

ただし、HBM-ONLYモード時は、メモリ搭載不可。HBM キャッシュモード時は、CPUあたり4枚、8枚のメモリ構成のみ可能。HBM フラットモード時は、CPUあたり1枚、2枚、4枚、8枚のメモリ構成のみ可能。

- (3) HBM-ONLYモード/HBM キャッシュモード/HBM フラットモードは水冷モデルのみ選択可能。

[DIMMの搭載位置]

・搭載制限

- BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
- CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8 x CPU個数)
- 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

CPU	CPU0								CPUタイプ				
	0		1		2		3		HBM以外		HBM(*1)		
iMC	A	B	C	D	E	F	G	H					
DDR CH	0	0	0	0	0	0	0	0	インディペンデントモード		HBM-ONLYモード	HBMキャッシュモード	HBMフラットモード
SLOT	0	0	0	0	0	0	0	0					
Socket	1A	1B	1C	1D	1E	1F	1G	1H					
#DIMMs													
0											✓		
1	D								✓				✓
2	D						D		✓				✓
4	D		D		D		D		✓		✓		✓
6	D		D		D		D		✓		✓		✓
8	D	D	D	D	D	D	D	D	✓		✓		✓

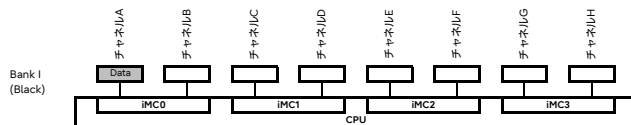
■物理CPU2個構成時

CPU	CPU0								CPU1								CPUタイプ				
	0		1		2		3		0		1		2		3		HBM以外		HBM(*1)		
iMC	A	B	C	D	E	F	G	H	A	B	C	D	E	F	G	H					
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	インディペンデントモード		HBM-ONLYモード	HBMキャッシュモード	HBMフラットモード
SLOT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
Socket	1A	1B	1C	1D	1E	1F	1G	1H	1J	1K	1L	1M	1N	1P	1Q	1R					
#DIMMs																					
0																			✓		
2(1+1)	D							D									✓				✓
4(2+2)	D						D	D						D			✓				✓
8(4+4)	D		D		D		D	D		D		D		D			✓		✓		✓
12(6+6)	D		D		D		D	D		D		D		D			✓		✓		✓
16(8+8)	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	✓		✓		✓	✓

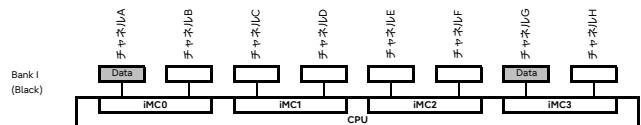
D : メモリ搭載位置

(*1) HBM対応のCPUは、Xeon Max 94xx プロセッサとなります。

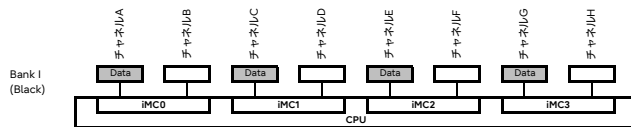
<1CPUあたり1DIMMの場合>



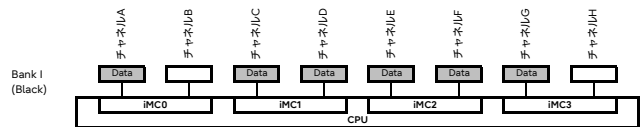
<1CPUあたり2DIMMの場合>



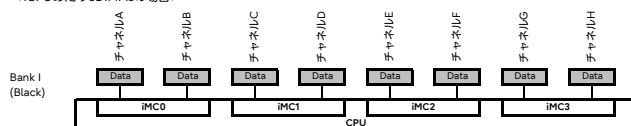
<1CPUあたり4DIMMsの場合>



<1CPUあたり6DIMMsの場合>



<1CPUあたり8DIMMsの場合>



※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■CX2560 M7の場合

【インディペンデントモード】

- (1) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1))では、SDCC機能は未サポート。
- (2) CPU 1個につき、1枚、2枚、4枚、8枚、12枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

- 搭載制限
 - BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
 - CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=1, 2, 4, 6, 8, 12 × CPU個数)
 - 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

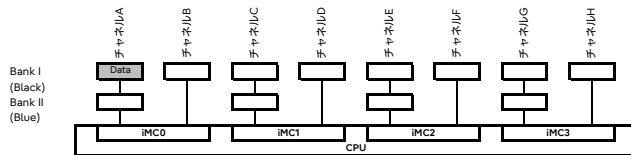
CPU	CPU0											
	iMC 0			1			2			3		
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
SLOT	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
Socket	1A	2A	1B	1C	2C	1D	1E	2E	1F	1G	2G	1H
#DIMMs	1	D									D	
2	D										D	
4	D			D							D	
6	D			D	D						D	
8	D			D	D	D					D	
12	D	D		D	D	D	D				D	D

■物理CPU2個構成時

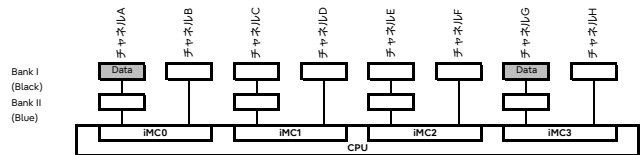
CPU	CPU0												CPU1											
	iMC 0			1			2			3			0			1			2			3		
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
SLOT	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
Socket	1A	2A	1B	1C	2C	1D	1E	2E	1F	1G	2G	1H	1J	2J	1K	1L	2L	1M	1N	2N	1P	1Q	2Q	1R
#DIMMs	2(1+1)	D											D											D
4(2+2)	D											D											D	
8(4+4)	D			D								D											D	
12(6+6)	D			D	D							D											D	
16(8+8)	D	D		D	D	D						D	D										D	D
24(12+12)	D	D	D	D	D	D	D					D	D	D									D	D

D: メモリ搭載位置

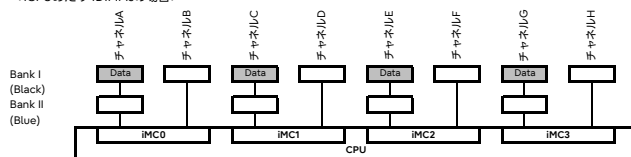
<1CPUあたり1DIMMsの場合>



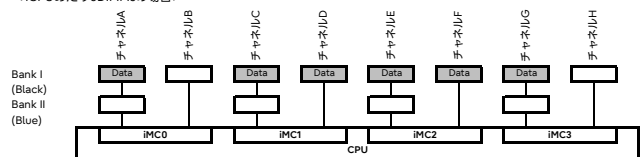
<1CPUあたり2DIMMsの場合>



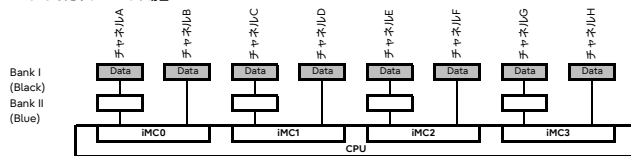
<1CPUあたり4DIMMsの場合>



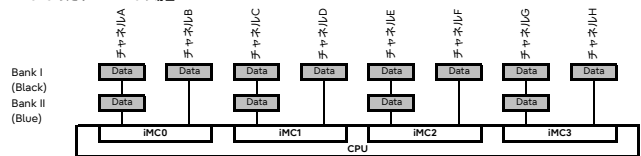
<1CPUあたり6DIMMsの場合>



<1CPUあたり8DIMMsの場合>



<1CPUあたり12DIMMsの場合>



【ミラードチャンネルモード】

- (1) ミラーとなるDIMMは、同一BANK内である必要があります。
- (2) 使用可能なメモリ容量は、搭載メモリ容量の1/2となります。
- (3) Single Rank×8(メモリ-16GB(16GB 4800 RDIMM×1))、Dual Rank×8(メモリ-32GB(32GB 4800 RDIMM×1))では、SDCC機能は未サポートです。
- (4) ミラードチャンネルモード設定サービスを選択し、カスタムメイドにてメモリを搭載する場合、同一型名メモリのみ搭載可能です。
- (5) CPU 1個につき、8枚のメモリを搭載可能です。

【DIMMの搭載位置】

- 搭載制限
 - BTOオーダー時、同一メモリ型名のみ手配可能です。
 - CPU毎に同一メモリ数のみ手配可能です。(メモリ数手配数合計=8 × CPU個数)
 - 異なる種類のDIMM(RDIMM×4/RDIMM×8/RDIMM 3DS)は混在搭載することはできません。

■1CPUあたりの搭載ルール

CPU	CPU0											
	iMC 0			1			2			3		
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
SLOT	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
Socket	1A	2A	1B	1C	2C	1D	1E	2E	1F	1G	2G	1H
#DIMMs	8	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D

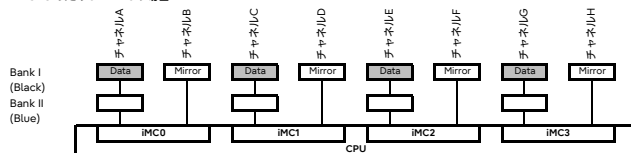
■物理CPU2個構成時

CPU	CPU0												CPU1											
	iMC 0			1			2			3			0			1			2			3		
CH	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
SLOT	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
Socket	1A	2A	1B	1C	2C	1D	1E	2E	1F	1G	2G	1H	1J	2J	1K	1L	2L	1M	1N	2N	1P	1Q	2Q	1R
#DIMMs	16(8+8)	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D

D: メモリ搭載位置

【4800 Registered DIMM/4800 Registered DIMM 3DSのみ】

<1CPUあたり8DIMMsの場合>



バックアップ装置関連事項

バックアップ装置のサポートOSと使用するソフトウェア一覧

■ OS標準バックアップユーティリティ対応表

バックアップ装置 装置型名 規格	適用OS	Windows系		Linux系				
		WS19S/D/E WS19SS	WS22S/D/E WS122SS	RHEL8(Intel64)	RHEL9(Intel64)	SLES 15 (x86_64)		
	バックアップユーティリティ	Windows Server Backup		Linux Command (*1)				
RDX 装置	PY-RD111 PYBRD111	RDX USB 3.0	▲	▲	○	○	○	
	PY-RD112 PYBRD112		▲	▲	○	○	○	
	LTO 装置	PY-LT711 PYBLT711	LTO Ultrium7	x	x	○	○	○
		PY-LT811 PYBLT811	LTO Ultrium8	x	x	○	○	○ (*2)
PY-LT911 PYBLT911		LTO Ultrium9	x	x	○	○	○ (*2)	

○: 対応
x: 未対応

▲: 内蔵データカートリッジドライブユニット(RDX装置)の設定が、「Fixed Disk」モードの場合のみサポート

(*1) 最新対応状況につきましては、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/linux/technical/support/kernel.html>)をご参照ください。

(*2) SLES 15 SP2以降 でサポート。

留意事項

- ・内蔵バックアップ装置(RDX装置を除く)をWindows OSでご使用になる場合は、別途バックアップソフトウェアが必要です。
- ・内蔵データカートリッジドライブユニット(RDX装置)を Windows Server Backup でご使用になる場合は、「RDX Utility for Windows」もしくは「RDX Manager for Windows」のインストールが必要です。
「RDX Utility for Windows」または「RDX Manager for Windows」は、当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>)から入手可能です。
- ・内蔵データカートリッジドライブユニット(RDX装置)をWindows Server Backupでご使用になる場合、本装置の設定は必ず「Fixed Disk」モードでご使用ください。「Fixed Disk」モードは、内蔵データカートリッジドライブユニット(RDX装置)をWindows Server Backupで使用可能にするための専用モードです。
- ・内蔵データカートリッジドライブユニット(RDX装置)をバックアップソフトウェアでご使用になる場合は、「RDX Utility for Windows」または「RDX Manager for Windows」を同時に実行しないでください。
- ・Linuxコマンドをご使用になる場合は、tar、cpio、ddをご使用ください。
- ・OS標準のバックアップユーティリティを使用した場合、バックアップ装置の性能を十分に引き出せないことがあります。

■ Arcserve対応表

PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とArcserveの対応について記します。
なお、PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とArcserveの最新情報や使用上の注意については、下記をご参照ください。
当社ホームページ (<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/>)

バックアップ装置 装置型名 規格	適用OS	WS19S/D/E WS19SS		WS22S/D/E WS122SS		
		Arcserve Backup 18.0 / Arcserve UDP 7.0 / Arcserve UDP 8.0	Arcserve Backup 19 / Arcserve UDP 9	Arcserve Backup 19 / Arcserve UDP 8.0 / Arcserve UDP 9	Arcserve Backup 19 / Arcserve UDP 8.0 / Arcserve UDP 9	
RDX 装置 (注1)	PY-RD111 PYBRD111	RDX USB 3.0	○	○	○ (*1)	
	PY-RD112 PYBRD112		○	○	○ (*1)	
	LTO 装置 (注2)	PY-LT711 PYBLT711	LTO Ultrium7	○	○	○ (*1)
		PY-LT811 PYBLT811	LTO Ultrium8	○	○	○ (*1)
PY-LT911 PYBLT911		LTO Ultrium9	x	x	x	

○: 対応
x: 未対応

(注1) RDX装置欄における、Arcserve UDP対応は、以下の2つの方法によるバックアップへの対応を示す。

- ・ Arcserve UDPの機能(Windowsエージェントまたは復旧ポイントサーバ)によるバックアップ
- ・ 製品に同梱されるArcserve Backupの機能によるバックアップ

(注2) LTO装置欄における、Arcserve UDP対応は、以下の方法によるバックアップへの対応を示す。

- ・ 製品に同梱されるArcserve Backupの機能によるバックアップ

(*1) Arcserve UDP 8.0製品での対応において、Arcserve UDPの機能を利用する場合、Arcserve社提供のモジュール(Arcserve UDP 8.1およびP00002498)の適用が必須。

(Arcserve社のサイト: <https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-8-1-Download-Link?language=ja> および

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-8-0-Solutions-Patches?language=ja>)

また、Arcserve UDP 8.0製品に同梱されるArcserve Backupの機能を利用する場合、Arcserve Backup 19へのアップグレードが必要。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■ NetVault Backup for Windows対応表

PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とNetVault Backup for Windowsの対応について記します。
 なお、PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とNetVault Backup for Windowsの最新情報や使用上の注意については、下記をご参照ください。
 当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/netvault/>)

バックアップ装置 装置名 規格		適用OS	WS19S/D WS19SS					WS22S/D WS22SS						
			NetVault Backup 版数											
			NetVault Backup 11.3	NetVault Backup 12.0	NetVault Backup 12.3	NetVault 13.0	NetVault 13.1	NetVault 13.2	NetVault Backup 11.3	NetVault Backup 12.0	NetVault Backup 12.3	NetVault 13.0	NetVault 13.1	NetVault 13.2
RDX 装置	PY-RD111	RDX USB 3.0	x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PYBRD111		x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PY-RD112		x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PYBRD112		x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
LTO 装置	PY-LT711	LTO Ultrium7	x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PYBLT711		x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PY-LT811	LTO Ultrium8	x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PYBLT811		x	○	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PY-LT911	LTO Ultrium9	x	x	x	○	○	○	x	x	x	○	○	○
	PYBLT911		x	x	x	○	○	○	x	x	x	○	○	○

○：対応
 x：未対応

■ Backup Exec対応表

PRIMERGYシリーズに接続されているバックアップ装置とBackup Execの対応について記します。
 なお、PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とBackup Execの最新情報や使用上の注意については、下記をご参照ください。
 当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/veritas/be/>)

バックアップ装置 装置名 規格		適用OS	WS19S/D			WS22S/D	
			Backup Exec 版数				
			Backup Exec 20	Backup Exec 21	Backup Exec 22	Backup Exec 21	Backup Exec 22
RDX 装置	PY-RD111	RDX USB 3.0 (*1)(*2)	○	○	○	○	○
	PYBRD111		(*3)	○	○	(*5)	○
	PY-RD112		○	○	○	○	○
	PYBRD112		(*3)	○	○	(*5)	○
LTO 装置	PY-LT711	LTO Ultrium7	○	○	○	○	○
	PYBLT711		(*3)	○	○	(*5)	○
	PY-LT811	LTO Ultrium8	○	○	○	○	○
	PYBLT811		(*3)	○	○	(*5)	○
	PY-LT911	LTO Ultrium9	x	○	○	○	○
	PYBLT911		(*4)	(*4)	(*4)	(*5)	(*4)

○：対応
 x：未対応
 ◎：対応(ただし、当社提供のUSBドライバの適用必須)

- (*1) 媒体(Data Cartridge RDX) をまたがるシステムバックアップは未サポート。
- (*2) カートリッジを抜いてOS再起動を行う運用の場合、「MBRパーティション」のカードリッジを利用してください。
 [GPTパーティション] のカードリッジを抜いた状態でOSを再起動するとOS再起動後にBackup ExecがRDX装置を認識しないことがあります。
 (この場合、Backup ExecからRDX装置の再登録作業が必要です)
- (*3) Backup Exec 20.4 以降の適用必須。
- (*4) 完全消去ジョブが18時間以上かかる場合、ジョブがタイムアウトすることがありますが、消去操作は完了するまで続行されます。
 また初期化ジョブが16分以上かかる場合、ジョブがタイムアウトすることがありますが、初期化操作は完了するまで続行されます。
- (*5) Backup Exec 21.3 以降の適用必須。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■ NetVault Backup for Linux対応表

PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とNetVault Backup for Linuxの対応について記します。
 なお、PRIMERGYシリーズに接続されるバックアップ装置とNetVault Backup for Linuxの最新情報や使用上の注意については、下記をご参照ください。
 当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/netvault/>)

バックアップ装置 装置型名 規格		適用OS		RHEL8(Intel64)					SLES 15 (x86_64)						
		NetVault Backup 版数		NetVault Backup 11.3	NetVault Backup 12.0	NetVault Backup 12.3	NetVault 13.0	NetVault 13.1	NetVault 13.2	NetVault Backup 11.3	NetVault Backup 12.0	NetVault Backup 12.3	NetVault 13.0	NetVault 13.1	NetVault 13.2
		装置型名	規格												
RDX 装置	PY-RD111 PYBRD111	RDX USB 3.0	x	x	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○	
	PY-RD112 PYBRD112		x	x	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○	
LTO 装置	PY-LT711 PYBLT711	LTO Ultrium7	x	x	○	○	○	○	x	x	x	○	○	○	
	PY-LT811 PYBLT811	LTO Ultrium8	x	x	○	○	○	○	x	x	x	○ (*1)	○ (*1)	○ (*1)	
	PY-LT911 PYBLT911	LTO Ultrium9	x	x	x	○	○	○	x	x	x	○ (*1)	○ (*1)	○ (*1)	

○：対応
 x：未対応

(*1) SLES 15 SP2でサポート。

iRMC(リモートマネジメントコントローラ)関連

- 標準搭載のiRMC(リモートマネジメントコントローラ)でオンボードストレージコントローラ及びオプションのSASコントローラカード/SASアレイコントローラカードのストレージ/RAIDの監視管理が可能です。
ストレージコントローラは専用のソフトウェア(ServerView Agentless Service等)不要で、使用OSに依存せずストレージ/RAIDの監視管理が可能になるものと、専用のソフトウェアを導入することで、ストレージ/RAIDの監視管理が可能になるもの2通りあります。
- iRMCによる監視管理は管理LAN上で行い、業務LANを使用しないため業務ネットワーク負荷がかかりません。また、セキュアな監視が実現可能です。
- 詳細な監視管理対象/設定方法等につきましては、下記当社ホームページに掲載のマニュアル「iRMC S6 - Web インターフェース」をご確認ください。
■当社ホームページ：
<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/> →
[ServerView Suite のマニュアル] → [製品を選択する] → [製品の検索] → [iRMC] で検索する
- 各機種のiRMCの世代について、以下の表をご確認ください。

機種名	iRMCの世代
RX1330 M6	iRMC S6
RX1440 M2	iRMC S6
RX2450 M2	iRMC S6
RX2530 M7	iRMC S6
RX2540 M7	iRMC S6
RX4770 M7	iRMC S6
TX1310 M5 (*1)	iRMC S6
TX1320 M6	iRMC S6
TX1330 M6	iRMC S6
TX2550 M7	iRMC S6
CX2560 M7	iRMC S6
CX2560 M7	iRMC S6

(*1) iRMC搭載モデルのみ

- PRIMERGYサーバに搭載可能なLANカードについては各機種の樹系図をご確認ください。
また、版数ごとに使用できるカードが異なる場合があります。これらは制限留意をご参照ください。
- iRMC用拡張Micro SDカードオプションについて、eLCM機能を使う場合に以下のサイズを利用する場合があります。

eLCM機能	最大推定使用量	備考
デプロイメント	24.5GB	eIMサイズ：約8.5GB OSイメージ：最大約16GB (SLESの場合)
アップデート	12GB	Update用バイナリファイルや、eUME等のアップデートに必要なすべてのファイル
カスタムイメージ	59.5GB	最大のDVD ISOファイルは8.5GBを、最大7つ保存する場合
PrimeCollect	1GB	1つのファイルが150MBであり、最大7個まで保存可能。

- LANカードのステータス監視 (MCTP) の対応状況については、マニュアルサイトに掲載している「iRMC Usage Note」をご参照ください。
<https://support.ts.fujitsu.com/index.asp>

セキュリティチップ(TPM)、インテルトラステッド・エグゼキューション・テクノロジー(インテル® TXT)および AMD ダイナミックルートオブトラストメジャメント(DRTM)のサポートについて

RX1330 M6/RX1440 M2/RX2450 M2/RX2530 M7/RX2540 M7/RX4770 M7/TX1310 M5/TX1320 M6/TX1330 M6/TX2550 M7/CX2550 M7/CX2560 M7において、以下のとおりOS、TPM、BIOSの種類により、TPM、インテル® TXTおよびDRTMのサポートが異なりますので、ご注意願います。

※セキュリティチップ(TPM)は中国国内では使用できません。

OS	インテルTXT：設定なし TPM 2.0を使用 BIOS：UEFIモードのみ			DRTM：設定なし TPM 2.0を使用 BIOS：UEFIモードのみ
	PY-TPM16 PYBTPM16 (*1)	PY-TPM19 PYBTPM19 (*1)	PY-TPM20 PYBTPM20 (*1)	PY-TPM18 PYBTPM18 (*1)
Windows Server 2022	○	○	○	○
Windows Server 2019	○	x	○	x
Red Hat Enterprise Linux 9.4	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 9.3	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 9.2	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 9.1	○	x	○	x
Red Hat Enterprise Linux 9.0	○	x	○	x
Red Hat Enterprise Linux 8.9	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 8.8	○	○	○	○
Red Hat Enterprise Linux 8.7	○	x	○	x
Red Hat Enterprise Linux 8.6	○	x	○	x
Red Hat Enterprise Linux 8.5	○	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.4	○	x	x	x
SUSE Linux Enterprise Server 15	x	x	x	x
VMware ESXi 8.0	○	○	○	○
VMware ESXi 7.0	○	x	○	○

OS	インテルTXT：設定あり TPM 2.0を使用 BIOS：UEFIモードのみ			DRTM：設定あり TPM 2.0を使用 BIOS：UEFIモードのみ
	PY-TPM16 PYBTPM16 (*1)	PY-TPM19 PYBTPM19 (*1)	PY-TPM20 PYBTPM20 (*1)	PY-TPM18 PYBTPM18 (*1)
Windows Server 2022	○	○	○	○
Windows Server 2019	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 9.4	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 9.3	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 9.2	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 9.1	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 9.0	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.9	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.8	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.7	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.6	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.5	x	x	x	x
Red Hat Enterprise Linux 8.4	x	x	x	x
SUSE Linux Enterprise Server 15	x	x	x	x
VMware ESXi 8.0	x	x	x	x
VMware ESXi 7.0	x	x	x	x

(*1) Windows Server 2022を物理環境、または仮想環境使用時のホストOSとして利用する場合、RX2530 M7/RX2540 M7/RX4770 M7/TX2550 M7/CX2550 M7/CX2560 M7はPY-TPM20/PYBTPM20、TX1310 M5はPY-TPM16/PYBTPM16、RX1330 M6/TX1320 M6/TX1330 M6はPY-TPM19/PYBTPM19、RX1440 M2/RX2450 M2はPY-TPM18/PYBTPM18が必要です。

※ BIOSファームウェアをアップデートする際は、BIOS設定画面にてインテル® TXTの設定を無効にする必要があります。

※ 制限留意事項については当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>)のサーバ本体の個別マニュアル「ご使用上の留意・注意事項」も併せてご確認ください。

※ セキュリティチップ(TPM)の証明書が必要な場合は、TPMの提供元(Infineon社)より入手していただく必要があります。

詳細については、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/peripheral/pg-option/>)をご参照ください。

Windows関連事項

Windows Server OSの使用権について

- Windows Server OSについては、ダウングレード/ダウンエディション権があります。
Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012における適用可能な組合せの考え方は下表のとおりです。
ダウングレード例：Windows Server® 2022>Windows Server® 2019>Windows Server® 2016>Windows Server® 2012 R2>Windows Server® 2012
ダウンエディション例：Datacenter>Enterprise>Standard>Essentials>Foundation
- PRIMERGY用OSオプション「Windows Server 2022 / 2019」のダウングレード権の行使は
ダウングレード先のWindows Server OSのマイクロソフト社によるサポート提供期間内のみ認められています。
本条件は、ダウングレードサービス付き製品やメディアキットで構築した環境も対象です。
ダウングレードしたWindows Server OSを使用している場合は、サポート提供期間内のWindows Server OSに切り替えてください。
Windows Server OSのマイクロソフト社によるサポート提供期間については、以下マイクロソフト社ホームページからご確認ください。
マイクロソフト社ホームページ(<https://learn.microsoft.com/ja-jp/lifecycle/products/>)

		ダウングレード/ダウンエディション可能な組合せ															
		WS22S	WS22D	WS22E	WS19S	WS19D	WS19E	WS16S	WS16D	WS16E	WS12RS	WS12RD	WS12RF	WS12RE	WS12S	WS12D	WS12E
保有 ライ セン ス	WS22S	-	x	x	▲	x	▲	▲	x	▲	▲	x	▲ ^(*)	▲	▲	x	▲
	WS22D	○	-	x	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲ ^(*)	▲	▲	▲	▲
	WS22E	x	x	-	x	x	▲	x	x	▲	x	x	▲ ^(*)	▲	x	x	▲
	WS19S	x	x	x	-	x	○	▲	x	▲	▲	x	▲ ^(*)	▲	▲	x	▲
	WS19D	x	x	x	○	-	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲ ^(*)	▲	▲	▲	▲
	WS19E	x	x	x	x	x	-	x	x	▲	x	x	▲ ^(*)	▲	x	x	▲
	WS16S	x	x	x	x	x	x	-	x	○	○	x	○ ^(*)	○	○	x	○
	WS16D	x	x	x	x	x	x	○	-	○	○	○	○ ^(*)	○	○	○	○
	WS16E	x	x	x	x	x	x	x	x	-	x	x	○ ^(*)	○	x	x	○
	WS12RS	x	x	x	x	x	x	x	x	x	-	x	x	○	○	x	○
	WS12RD	x	x	x	x	x	x	x	x	x	○	-	x	○	○	○	○
	WS12S	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	-	x	○
	WS12D	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	○	-	○

○：可能、▲：可能（ダウングレード先のWindows Server OSのマイクロソフト社によるサポート終了まで）、x：不可、-：対象外
(*1) OEMの場合のみ、Foundationの利用が可能

- ダウングレード/ダウンエディション権を行使する場合、お客様がダウングレードして使用するバージョンのメディアとプロダクトキーを所有している必要があります。
- Windows Server 2022 / Windows Server 2019 ダウングレード権の詳細は、「マイクロソフトソフトウェアアライアンス条項」を参照ください。
マイクロソフトソフトウェアアライアンス条項については、以下マイクロソフト社ホームページからご確認ください。
マイクロソフト社ホームページ(<https://www.microsoft.com/ja-jp/useterms>)

OSをサーバ本体と同時契約し、本体にインストールまたはバンドルしてお届けするWindows OSオプションの提供方法について

- 選択するOSオプション型名に応じて、インストール/バンドル(OS媒体添付)を選択可能です。
- Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2は、64bit版のみの提供となります。

Windows Server® 2019へのダウングレードサービスについて

- 本サービスは、Windows Server® 2022に付与されているダウングレードの権利に基づき、お客様がWindows Server® 2019をご利用になる際、OS媒体の用意やインストールなどの環境構築作業を、当社が代行するサービスです。
- Windows Server® 2019へのダウングレードサービス付き製品の提供形態は下記のとおりです。
 - 本製品には、Windows Server® 2022のOS媒体に加え、Windows Server® 2019のOS媒体も同梱されます。さらに、モデルやタイプによっては、Windows Server 2019のインストール作業を代行します。
 - 製品貼り付けのCOAシール(プロダクトキーが記載されているシール)は、Windows Server® 2022用となります。Windows Server® 2019ではご使用できませんCAL(クライアントアクセスライセンス)は製品に添付されていないので、使用する環境に応じて、Device CAL/User CALを別途手配する必要があります。
 - 本製品にはWindows Server® 2022のOS媒体が同梱されるため、Windows Server® 2019から切り替えての使用が可能です。ただし、各製品のサポートOS情報にてWindows Server® 2022の動作状況をご確認のうえ、ご適用ください。

Windows Server® 2016へのダウングレードサービスについて

- 本サービスは、Windows Server® 2022 / 2019に付与されているダウングレードの権利に基づき、お客様がWindows Server® 2016をご利用になる際、OS媒体の用意やインストールなどの環境構築作業を、当社が代行するサービスです。
- Windows Server® 2016へのダウングレードサービス付き製品の提供形態は下記のとおりです。
 - 本製品には、Windows Server® 2022 / 2019のOS媒体に加え、Windows Server® 2016のOS媒体も同梱されます。さらに、モデルやタイプによっては、Windows Server 2016のインストール作業を代行します。
 - 製品貼り付けのCOAシール(プロダクトキーが記載されているシール)は、Windows Server® 2022 / 2019用となります。Windows Server® 2016ではご使用できません。CAL(クライアントアクセスライセンス)は製品に添付されていないので、使用する環境に応じて、Device CAL/User CALを別途手配する必要があります。
 - 本製品にはWindows Server® 2022 / 2019のOS媒体が同梱されるため、Windows Server® 2016から切り替えての使用が可能です。ただし、各製品のサポートOS情報にてWindows Server® 2022 / 2019の動作状況をご確認のうえ、ご適用ください。

Windows Server® 2012 R2へのダウングレードサービスについて

- 本サービスは、Windows Server® 2019に付与されているダウングレードの権利に基づき、お客様がWindows Server® 2012 R2をご利用になる際、OS媒体の用意やインストールなどの環境構築作業を、当社が代行するサービスです。
- Windows Server® 2012 R2へのダウングレードサービス付き製品の提供形態は下記のとおりです。
 - 本製品には、Windows Server® 2019のOS媒体に加え、Windows Server® 2012 R2のOS媒体も同梱されます。さらに、モデルやタイプによっては、Windows Server 2012 R2のインストール作業を代行します。
 - 製品貼り付けのCOAシール(プロダクトキーが記載されているシール)は、Windows Server® 2019用となります。Windows Server® 2012 R2ではご使用できません。CAL(クライアントアクセスライセンス)は製品に添付されていないので、使用する環境に応じて、Device CAL/User CALを別途手配する必要があります。
 - 本製品にはWindows Server® 2019のOS媒体が同梱されるため、Windows Server® 2012 R2から切り替えての使用が可能です。ただし、各製品のサポートOS情報にてWindows Server® 2019の動作状況をご確認のうえ、ご適用ください。

Windows Server OSメディアキットについて

- Windows Server OSメディアキットは、Windows OSをダウングレード/ダウンエディションして使用する場合に必要となる「インストールメディア/プロダクトキー」です。「メディアキット」にはライセンスは含まれておりませんので、Windows Server OS ライセンスが含まれているWindows Server OS インストール/バンドルオプションと同時にご購入/されるお客様へのみ提供可能となります。「メディアキット」のみでの手配はできません。手配上の、組み合わせ詳細については、「OSオプション、SupportDesk、複数同時選択時の組み合わせについて」をご参照ください。

Windows OSサポートについて

- お客様のシステムの安定稼働と円滑な保守を支援するため、豊富な経験に基づく充実したWindowsサポートサービス「SupportDesk」です。専門技術者によるWindows OSサポート(電話によるQ&A対応/問題解決支援など)、Webによる情報提供(ソフトウェアの修正情報/運用ノウハウ/サービス対応履歴など)を行います。提供ラインナップ詳細は下表のとおりです。Windowsサポートサービス「SupportDesk」のサポート期間については、当社のWindows サポートライフサイクルポリシーをご参照ください。
<https://www.fujitsu.com/jp/services/infrastructure/service-desk/menu/standard/windows/#tab-a-05>

	SupportDesk Standard (Windows Server Standard)	SupportDesk Standard (Windows Server Standard 仮想化対応)	SupportDesk Standard (Windows Server Datacenter 仮想化対応)
サービス期間	3年/4年/5年	3年/4年/5年	3年/4年/5年
サービス時間帯	平日/24時間365日	平日/24時間365日	平日/24時間365日
サポート対象範囲	ホストOS	ホストOS/ゲストOS	ホストOS/ゲストOS
ホスト対象OS(*1)	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Standard (*2) Windows Server® IoT 2022 / 2019 for Storage Standard Windows® Storage Server 2016 / 2012 R2 Standard (*2) Windows Server® 2012 R2 / 2012 Foundation (*2) Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Essentials (*2) 	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Standard (*2) Windows Server® IoT 2022 / 2019 for Storage Standard Windows® Storage Server 2016 / 2012 R2 Standard (*2) Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Essentials (*2) 	<ul style="list-style-type: none"> Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Standard (*2) Windows Server® 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Datacenter (*2)
ゲスト対象OS	-	※ホストOS/ゲストOSの組み合わせは、当社でサポート可能な組み合わせに限る。(*3)	※ホストOS/ゲストOSの組み合わせは、当社でサポート可能な組み合わせに限る。(*3)
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> 専門技術者によるOSサポート(電話によるQ&A対応/問題解決支援など) Webによる情報提供(ソフトウェアの修正情報/運用ノウハウ/サービス対応履歴など) 		

(*1) サポート可能なOSは使用するサーバのサポートOSに準じます。

(*2) Windowsサポートサービス「SupportDesk」のWindows® Server 2012 / 2012 R2およびWindows® Storage Server 2012 R2のサポートは、2024年10月10日に終了します。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/integrated-systems/virtual/solution/ws2012eos/#anc-02>

(*3) 詳細については、「各OSの仮想化機能について」をご参照ください。

マイクロソフト社製ソフトウェア製品使用時の留意事項について

- サービスプロバイダ様がマイクロソフト社製ソフトウェア製品を利用したサービス(例：ASP/SaaS、アウトソーシング、ホスティング等)を第三者(エンドユーザー様)に提供する場合、「サービスプロバイダライセンス(SPLA)」というライセンス体系が適用されます。そのため、サーバ本体と同時契約し、本体にインストールまたはバンドルしてお届けするライセンス製品やパッケージ製品、およびボリュームライセンス製品をご利用になる場合には、上記のサービスを第三者(エンドユーザー様)に提供することはできませんので、ご注意ください。ただし、ハウジングサービス(サービス利用者がライセンスを資産として所有)において、ご利用になるサーバがサービス利用者様のみの使用である場合に限り、サーバ本体と同時契約し、サーバ本体にインストールまたはバンドルしてお届けするライセンス製品やパッケージ製品、およびボリュームライセンス製品のライセンス体系を適用することが可能です。
- OSインストールには、ODDドライブが必要となります。保守用のノートブックパソコンを持ち込みできない環境に設置される場合かつ内蔵ODDを搭載しない場合、複数台システムに最低1台、スーパーマルチドライブユニットを手配する必要があります。
- Switch Embedded Teaming (SET) をご使用される場合は、同一型名の LANカード を選択いただく必要があります。Switch Embedded Teaming (SET) の詳細は以下のマイクロソフト社ホームページをご確認ください。
マイクロソフト社ホームページ(<https://learn.microsoft.com/en-us/azure-stack/hci/concepts/host-network-requirements>)
- AMD EPYCプロセッサ搭載のM2サーバにWindows Server® 2022をボリュームライセンスで導入する場合は、2022年7月以降のインストールメディアを使用してください。Windows Server® 2022のインストール/バンドルオプションを手配する場合は、手配するメディア型名が世代で異なるため、システム構成図の各機種種の樹系図をご確認ください。
- Intelプロセッサ搭載サーバでは、AMD M2インストール/バンドルオプションのメディアを使用しないでください。
- Xeon Max プロセッサはWindows OSをサポートしていません。
Windows OSを物理環境、または仮想環境使用時のホストOSとして利用する場合は、Xeon Max プロセッサ以外のCPUを手配してください。
- その他留意事項に関する最新情報は、当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/software/windows/>)をご確認ください。

Windows Serverの最新情報について

- マイクロソフト社は「Microsoft® Windows Server® 2022」を発表しました。
当社における対応状況については当社ホームページ「Microsoft® Windows Server® 2022の動作確認情報」(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/software/windows/support/2022/>)をご参照ください。

Linux関連事項

Red Hat Enterprise Linuxのサポートについて

- お客様のシステムの安定稼働と円滑な保守を支援するため、豊富な経験に基づく充実したLinuxサポートサービス「SupportDesk」をご提供します。
 - Red Hat Enterprise LinuxのSupportDeskは年額払いのOS単体サポート商品としてご提供していますが、一部のラインナップでは一括払いでPRIMERGYと同時手配可能なオプションをご提供します。
 - オプション提供品のラインナップ詳細は下表のとおりです。
- サービス期間終了後もRed Hat Enterprise Linuxを継続してご利用になる場合は、SupportDesk契約も継続する必要があります。オプションのサービス期間終了にあわせて、OS単体サポート商品であるRed Hat Enterprise LinuxのSupportDeskを別途ご契約ください。

	SupportDesk Standard (Red Hat Enterprise Linux 基本サポート)				SupportDesk Standard (Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート)				
	1ゲスト	4ゲスト	VDC ゲスト無制限 (ゲスト専用)	2ゲスト (ゲスト専用)	1ゲスト	4ゲスト	VDC ゲスト無制限 (ゲスト専用)	2ゲスト (ゲスト専用)	
サービス期間	1/3/4/5年	3/4/5年	3/4/5年	3/4/5年	3/4/5年				
サービス時間帯	平日/24時間365日				平日/24時間365日				
サポート 範囲	物理CPU数 (Socket数)	~2	~2	~2	無制限	~2	~2	~2	無制限
	RHELゲスト OS数	~1	~4	無制限	~2	~1	~4	無制限	~2
使用可能 ハイパーバイザ	RHEL仮想マシン機能 (*3)			Hyper-V VMware		RHEL仮想マシン機能 (*3)		Hyper-V VMware	
サポートOS (*1)(*2)	Red Hat Enterprise Linux				Red Hat Enterprise Linux				
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> 専門技術者によるLinux OSサポート (電話によるQ&A対応/問題解決支援など) Webによる情報提供(ソフトウェアの修正情報/運用ノウハウ/サービス対応履歴など) プロダクトIDの入手手続き代行 				<ul style="list-style-type: none"> 専門技術者によるLinux OSサポート (電話によるQ&A対応/問題解決支援など) Webによる情報提供(ソフトウェアの修正情報/運用ノウハウ/サービス対応履歴など) プロダクトID(EUSサービスを含む)の入手手続き代行 				

(*1) 対象版数については、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/linux/technical/support/kernel.html>)をご参照ください。

(*2) 仮想環境におけるサポートOSの組み合わせについては、「各OSの仮想化機能について」をご参照ください。

(*3) RHEL仮想マシン機能上でRHELゲストOSを5以上ご利用になる場合は、年額払いの「RHEL Server [PG 2CPU/ゲスト無制限]」を別途ご契約ください。

- 詳細はシステム構成図(サービス一覧)の「SupportDesk StandardにおけるRed Hat Enterprise Linuxのサポートについて」をご参照ください。

SUSE Linux Enterprise Serverのサポートについて

- お客様のシステムの安定稼働と円滑な保守を支援するため、豊富な経験に基づく充実したSUSE Linuxサポートサービス「SupportDesk」をご提供します。
- SUSE Linux Enterprise ServerのSupportDeskは年額払いのOS単体サポート商品としてご提供しています。

Linuxのサポート版数について

PRIMERGYにおいてサポート可能なLinuxのサポート版数については、当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/linux/technical/support/kernel.html>)をご参照ください。

Linuxシステムにおけるメモリ搭載、ファイルシステムの使用可能サイズについて

Linuxシステムではディストリビューションにより最大搭載メモリ容量、ファイルシステムの使用可能最大サイズが以下のようになります。

ディストリビューション	最大搭載メモリ容量	ファイルシステムの最大サイズ (*1)		
		ext3/ext4	XFS	btrfs
Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)	24TB	16TB / 50TB	1PB	-
Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)	48TB	16TB / 50TB	1PB	-
SUSE Linux Enterprise Server 15 for AMD64 & Intel64	64TB	- / 1EB	8EB	16EB

(*1) システムボリュームとして使用する場合は、2TB以下でご使用ください。

Linux仮想環境におけるWindowsゲストインストール時のメディアについて

Linux仮想環境において、ゲストOSにWindows OSをインストールする場合、PRIMERGY 本体にインストールまたはバンドルしてお届けするWindows OSオプション(PY型名)に添付されるインストールメディアは利用できません。

別途、パッケージ製品やボリュームライセンス製品のインストールメディアをご使用ください。

Red Hat Enterprise Linux インストール時のメディアについて

Red Hat Enterprise Linux 8.3以降はインストールISOイメージがDVD(片面2層 8.5GB)の容量を超えたため、DVDはご使用になれません。インストールISOイメージをiRMC AVR/バーチャルメディア機能でご使用になるか、またはUSBメモリをご使用ください。USBメモリはインストールISOイメージが格納できる容量以上のものをご使用ください。

SUSE Linux Enterprise Server 15 インストール時のメディアについて

SUSE Linux Enterprise Server 15 GA/SP1をインストールする場合、Installer DiskとPackages Diskの2種類のインストールメディアが必要になります。この内、Packages Diskは4.7Gbyteを超えるため、DVD-R/DVD-RW (片面1層) はご利用できません。DVD-R DL (片面2層)、または、USBメモリ (Packages Diskのisoイメージが格納できる容量以上) をご利用ください。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

仮想化機能について

サポート可能な仮想化機能は使用するOS、内蔵ストレージ構成により異なります。

機種名	RHEL8 / RHEL9			SLES 15		
	オンボード(SATA) コントローラにて		左記以外の ストレージコントローラ 使用時	オンボード(SATA) コントローラにて		左記以外の ストレージコントローラ 使用時
	RAID機能 有効時	RAID機能 無効時		RAID機能 有効時	RAID機能 無効時	
RX1330 M6	x	○	○	x	○	○
RX1440 M2	-	-	○	-	-	○
RX2450 M2	-	-	○	-	-	○
RX2530 M7	-	○	○	-	○	○
RX2540 M7	-	○	○	-	○	○
RX4770 M7	-	○	○	-	○	○
GX2560 M7	-	○	○	-	○	○
TX1310 M5	x	○	○	x	○	○
TX1320 M6	x	○	○	x	○	○
TX1330 M6	x	○	○	x	○	○
TX2550 M7	-	○	○	-	○	○
CX2550 M7	-	○	○	-	○	○
CX2560 M7	-	○	○	-	○	○

○：可能 x：不可 -：対象構成無し

OSオプション、SupportDesk、複数同時選択時の組み合わせについて

OSオプションの略称、同時手配可能数について

・ OSオプションの略称および手配可能数は下表のとおりです。OSオプションごとの組合せについては、「OSオプションの同時選択可否について」をご参照ください。

■ Windows

略称		製品名	型名	手配可能数		
Windows	インストール	WS22S	Windows Server 2022 Standard(16コア) インストール	PYBWPSS/PYBWPSS5E	1	1
		WS22S(Hyper-V)	Windows Server 2022 Standard(16コア/Hyper-V) インストール	PYBWPSSH/PYBWPSS5HE	1	
		WS19S(2022DG)	Windows Server 2022 Standard(16コア) ダウングレードサービス付き Windows Server 2019 Standard インストール	PYBWPDS9	1	
	バンドル	WS22S	Windows Server 2022 Standard(16コア) バンドル	PYBWBSS/PYBWBSS5E	1	79
		WS22S Add(2Core)	Windows Server 2022 Standard Additional License(2コア)	PY-WASS/PYBWA55	1	
		WS22S Add(4Core)	Windows Server 2022 Standard Additional License(4コア)	PY-WAS52/PYBWA552	3	
		WS22S Add(16Core)	Windows Server 2022 Standard Additional License(16コア)	PY-WAS53/PYBWA553	79	
	バンドル	WS22D	Windows Server 2022 Datacenter(16コア) バンドル	PYBWBDS/PYBWBDS5E	1	15
		WS22D Add(2Core)	Windows Server 2022 Datacenter Additional License(2コア)	PYBWA5D	1	
		WS22D Add(4Core)	Windows Server 2022 Datacenter Additional License(4コア)	PYBWA5D2	3	
		WS22D Add(16Core)	Windows Server 2022 Datacenter Additional License(16コア)	PYBWA5D3	15	
	インストール	WSI22SS(16Core)	Windows Server IoT 2022 for Storage Standard(16コア) インストール	PYBWPWSS1	1	1
		WSI22SS(24Core)	Windows Server IoT 2022 for Storage Standard(24コア) インストール	PYBWPWSS3	1	
	バンドル	WSI22SS Add(16Core)	Windows Server IoT 2022 for Storage Standard Additional License(16コア)	PYBWA5S	4	5
		WSI22SS Add(24Core)	Windows Server IoT 2022 for Storage Standard Additional License(24コア)	PYBWA5S2	4	
	バンドル	DCAL1	Windows Server 2022 1 Device CAL	PYBWC01C	4	10
		DCAL5	Windows Server 2022 5 Device CAL	PYBWC05C	1	
		DCAL10	Windows Server 2022 10 Device CA	PYBWC10C	4	
		DCAL50	Windows Server 2022 50 Device CAL	PYBWC50C	1	
		DCAL100	Windows Server 2022 100 Device CAL	PYBWC100C	10	
	バンドル	UCAL1	Windows Server 2022 1 UserCAL	PYBWC01U	4	10
		UCAL5	Windows Server 2022 5 UserCAL	PYBWC05U	1	
		UCAL10	Windows Server 2022 10 UserCAL	PYBWC10U	4	
		UCAL50	Windows Server 2022 50 UserCAL	PYBWC50U	1	
UCAL100		Windows Server 2022 100 UserCAL	PYBWC100U	10		
バンドル	RSDCAL1	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 1 Device CAL	PYBWC01D	4	10	
	RSDCAL5	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 5 Device CAL	PYBWC05D	1		
	RSDCAL10	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 10 Device CAL	PYBWC10D	4		
	RSDCAL50	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 50 Device CAL	PYBWC50D	1		
	RSDCAL100	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 100 Device CAL	PYBWC100D	10		
バンドル	RDSUCAL1	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 1 User CAL	PYBWC01U	4	10	
	RDSUCAL5	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 5 User CAL	PYBWC05U	1		
	RDSUCAL10	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 10 User CAL	PYBWC10U	4		
	RDSUCAL50	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 50 User CAL	PYBWC50U	1		
	RDSUCAL100	Windows Server 2022 Remote Desktop Services 100 User CAL	PYBWC100U	10		
バンドル	SQL2022(サーバル)	Microsoft SQL Server 2022 Standard バンドル	PYBWBLS	1	11	
	SQL2022(4Core)	Microsoft SQL Server 2022 Standard(4コア) バンドル	PYBWBLS4	1		
	SQL2022 Add(2Core)	Microsoft SQL Server 2022 Standard Additional License(2コア) バンドル	PYBWBLS5	10		
	SQL 2022 DCAL1	Microsoft SQL Server 2022 1 Device CAL	PYBWC01E	7		
	SQL 2022 DCAL5	Microsoft SQL Server 2022 5 Device CAL	PYBWC05E			
	SQL 2022 DCAL10	Microsoft SQL Server 2022 10 Device CAL	PYBWC10E	7		
	SQL 2022 UCAL1	Microsoft SQL Server 2022 1 User CAL	PYBWC01U			
	SQL 2022 UCAL5	Microsoft SQL Server 2022 5 User CAL	PYBWC05U			
SQL 2022 UCAL10	Microsoft SQL Server 2022 10 User CAL	PYBWC10U				
バンドル (メディアオプション)	SQL2019	Microsoft SQL Server 2019 Standard メディアキット	PYBWBLS9	1	2	
	SQL2017	Microsoft SQL Server 2017 Standard メディアキット	PYBWBLS7	1		
バンドル (メディアオプション)	WS22S	Windows Server 2022 Standard メディアキット	PYBWBSS2	1	2	
	WS19S	Windows Server 2019 Standard メディアキット	PYBWBSS9	1		
	WS19D	Windows Server 2019 Datacenter メディアキット	PYBWBDS9	1		
	WS16S	Windows Server 2016 Standard メディアキット	PYBWBSS6	1		
	WS16D	Windows Server 2016 Datacenter メディアキット	PYBWBDS6	1		
インストール	WS22E	Windows Server 2022 Essentials(10コア) インストール	PYBWPB5	1	1	
バンドル	WS22E	Windows Server 2022 Essentials(10コア) バンドル	PYBWPB5B	1		

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■ Linux/VMware

略称		製品名		型名	手配可能数
Linux	サポート	RHEL 基本 2CPU/1ゲスト	Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト	PYBSPR**04 (*)	1
		RHEL 基本 2CPU/4ゲスト	Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト	PYBSPK**04 (*)	1
		RHEL VDC 基本	Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限(ゲスト専用)	PYBSPD**04 (*)	1
		RHEL 基本 2ゲスト	Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2ゲスト(ゲスト専用)	PYBSPN**04 (*)	1
		RHEL 拡張 2CPU/1ゲスト	Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト	PYBSPR**E4 (*)	1
		RHEL 拡張 2CPU/4ゲスト	Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト	PYBSPK**E4 (*)	1
		RHEL VDC 拡張	Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限(ゲスト専用)	PYBSPD**E4 (*)	1
		RHEL 拡張 2ゲスト	Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)	PYBSPN**E4 (*)	1
VMware	OS管理ソフト等	M.2	VMware vSphere Hypervisor用 M.2 Flash モジュール(240GB)	PY-MF24NV4/PYBMF24NV4	1 (*2)
			VMware vSphere Hypervisor用 M.2 Flash モジュール-240GB	PY-MF24NVD/PYBMF24NVD	1 (*2)

(*1) 型名に使用されているアスタリスク(*)は、基本/拡張サポート(Standard/Standard24)がすべて対象であることを示しています。

(*2) デュアルM.2 コントローラカード (PDUAL CP100)[PY-DMCP24/PYBDMCP24/PYBDMCP24L]/デュアルM.2 コントローラカード (PDUAL CP300)[PY-DMCP35/PYBDMCP35/PYBDMCP35L]
手配時は2となります。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

OSオプションの同時選択可否について

・ OSオプションを同時選択する際、組み合わせの可否は、以下のようになります
(機種により選択可能なOSオプションは異なりますので、樹系図表紙の「サポートOS」、および樹系図内の「OSオプション」をご確認のうえ、手配ください)。

■ Windows

OSオプション		Windows																		
		インストール						バンドル					メディアキット							
		WS22S	WS22S(Hyper-V)	WS22E	WSI22SS(16Core)	WSI22SS(24Core)	WSI9S(2022DG)	WS22S	WS22D	WS22E	WS22S Add(2/4/16Core)	WS22D Add(2/4/16Core)	WSI22SS Add(16/24Core)	WS22S (*1)	WSI9S (*1)	WSI9D (*1)	WS16S (*1)	WS16D (*1)		
Windows	インストール	WS22S	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	○	x	○	x	○	x
		WS22S(Hyper-V)	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	○	x	○	x	○	x
		WS22E	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
		WSI22SS(16Core)	x	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	x	x	x	x	x
		WSI22SS(24Core)	x	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	x	x	x	x	x
		WSI9S(2022DG)	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	x	x	x	x	x	x
	バンドル	WS22S	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	x	x	○	x	○	x	○	x
		WS22D	x	x	x	x	x	x	x	x	○	x	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS22E	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
		WS22S Add(2/4/16Core)	○	○	x	x	x	○	○	x	x	○	x	x	○	x	○	x	○	x
		WS22D Add(2/4/16Core)	x	x	x	x	x	x	○	x	○	x	○	○	○	○	○	○	○	○
		WSI22SS Add(16/24Core)	x	x	x	○	○	x	x	x	x	○	x	x	x	x	x	x	x	x
	メディアキット	WS22S (*1)	x	x	x	x	x	x	○	x	○	x	○	○	○	○	○	○	○	○
		WSI9S (*1)	○	○	x	x	x	○	○	x	○	○	x	○	x	x	x	x	x	x
		WSI9D (*1)	x	x	x	x	x	x	○	x	○	x	○	x	x	x	x	x	x	x
		WS16S (*1)	○	○	x	x	x	○	○	x	○	○	x	○	x	x	x	x	x	x
		WS16D (*1)	x	x	x	x	x	x	○	x	○	x	○	x	x	x	x	x	x	x
	OS管理ソフト等	DCAL1/5/10/50/100	○	○	x	x	x	○	○	○	x	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		UCAL1/5/10/50/100	○	○	x	x	x	○	○	○	x	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		RSDCAL1/5/10/50/100	○	○	x	x	x	○	○	○	x	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		RDSUCAL1/5/10/50/100	○	○	x	x	x	○	○	○	x	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL2022(サーバル/ICAL)	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL2022(4Core)	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL2022 Add(2Core)	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL2019	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL2017	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL 2022 DCAL1/5/10	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
		SQL 2022 UCAL1/5/10	○	○	○	x	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○
VMware	OS管理ソフト等	M.2	x	x	x	x	x	○	○	x	○	○	x	○	○	○	○	○	○	○

○：同時手配可、x：同時手配不可

(*1) Linux仮想環境において、ゲストOSにWindows OSをインストールする場合、PRIMERGY 本体にインストールまたはバンドルしてお届けするWindows OSオプション(PY型名)に添付されるインストールメディアは利用できません。別途、パッケージ製品やボリュームライセンス製品のインストールメディアをご使用ください。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■ Windows/VMware

OSオプション		Windows											VMware		
		OS管理ソフト等											OS管理ソフト等		
		DCAL1/5/10/50/100	UCAL1/5/10/50/100	RDSDCAL1/5/10/50/100	RDSUCAL1/5/10/50/100	SQL2022(サーバ/ICAL)	SQL2022(4Core)	SQL2022 Add(2Core)	SQL2019	SQL2017	SQL 2022 DCAL1/5/10	SQL 2022 UCAL1/5/10	M.2		
Windows	インストール	WS22S	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		WS22S(Hyper-V)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		WS22E	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		WSI22SS(16Core)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		WSI22SS(24Core)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	バンドル	WS19S(2022DG)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		WS22S	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS22D	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS22E	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		WS22S Add(2/4/16Core)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS22D Add(2/4/16Core)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	メディアキット	WSI22SS Add(16/24Core)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		WS22S (*1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS19S (*1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS19D (*1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		WS16S (*1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	OS管理ソフト等	WS16D (*1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		DCAL1/5/10/50/100	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○
		UCAL1/5/10/50/100	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
		RDSDCAL1/5/10/50/100	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
		RDSUCAL1/5/10/50/100	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
		SQL2022(サーバ/ICAL)	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
		SQL2022(4Core)	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	○	○
SQL2022 Add(2Core)		○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	○	○	
SQL2019		○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
SQL2017		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	
SQL 2022 DCAL1/5/10		○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	×	○	○	
SQL 2022 UCAL1/5/10	×	○	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○		
VMware	OS管理ソフト等	M.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	

○：同時手配可、×：同時手配不可

(*1) Linux仮想環境において、ゲストOSにWindows OSをインストールする場合、PRIMERGY 本体にインストールまたはバンドルしてお届けするWindows OSオプション(PY型名)に添付されるインストールメディアは利用できません。別途、パッケージ製品やボリュームライセンス製品のインストールメディアをご使用ください。

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

OSオプションとSupportDeskの同時選択可否について

・ OSオプションとハードウェア用SupportDesk、OS用SupportDeskを同時選択する際、組み合わせの可否は、以下のようになります
(機種により選択可能なOSオプション、SupportDeskは異なります)。

■ ハードウェア用SupportDesk

OSオプション		SupportDesk	ハードウェア用SupportDesk														
			保証延長パック 翌営業日以降訪問修理			SupportDesk/パック Standard/Standard24			SupportDesk/パック 保守交換ディスク引渡プラス/ 保守交換ディスク引渡プラス24			SupportDesk/パック BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検プラス/ BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検プラス24			SupportDesk/パック BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検・保守交換ディスク 引渡プラス/ BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検・保守交換ディスク 引渡プラス 24		
			3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年
Windows	インストール	WS22S		○			○			○			○			○	
		WS22S(Hyper-V)		○			○			○			○			○	
		WS22E		○			○			○			○			○	
		WSI22SS(16Core)		○			○			○			○			○	
		WSI22SS(24Core)		○			○			○			○			○	
		WSI9S(2022DG)		○			○			○			○			○	
	バンドル	WS22S		○			○			○			○			○	
		WS22D		○			○			○			○			○	
		WS22E		○			○			○			○			○	
		WS22S Add(2/4/16Core)		○			○			○			○			○	
		WS22D Add(2/4/16Core)		○			○			○			○			○	
		WSI22SS Add(16/24Core)		○			○			○			○			○	
	メディアキット	WS22S		○			○			○			○			○	
		WSI9S		○			○			○			○			○	
		WSI9D		○			○			○			○			○	
		WSI6S		○			○			○			○			○	
		WSI6D		○			○			○			○			○	
	OS管理ソフト等	DCAL1/5/10/50/100		○			○			○			○			○	
		UCAL1/5/10/50/100		○			○			○			○			○	
		RSDCAL1/5/10/50/100		○			○			○			○			○	
		RDSUCAL1/5/10/50/100		○			○			○			○			○	
SQL2022(サーバル/VCAL)			○			○			○			○			○		
SQL2022(4Core)			○			○			○			○			○		
SQL2022 Add(2Core)			○			○			○			○			○		
SQL2019			○			○			○			○			○		
SQL2017			○			○			○			○			○		
SQL 2022 DCAL1/5/10			○			○			○			○			○		
SQL 2022 UCAL1/5/10		○			○			○			○			○			
VMware	OS管理ソフト等	M.2		○			○			○			○			○	

○：同時手配可 x：同時手配不可

システム構成図留意事項

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

■ OS用SupportDesk

SupportDesk		OS用SupportDesk																							
		SupportDesk Standard/Standard24 (Windows Server)			SupportDesk Standard/Standard24 (Windows Server Standard 仮想化対応)			SupportDesk Standard/Standard24 (Windows Server Datacenter 仮想化対応)			SupportDesk Standard/Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート/ 拡張サポート (*1) 2CPU/1ゲスト]			SupportDesk Standard/Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート/ 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]			SupportDesk Standard/Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート/ 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]			SupportDesk Standard/Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート/ 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]					
OSオプション		3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	1年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年		
Windows	インストール	WS22S	○			○				x				x				x						○	
		WS22S(Hyper-V)	○			○				x				x				x				○		○	
		WS22E	○			○				x				x				x				x		x	
		WSI22SS(16Core)	○			○				x				x				x				x		x	
		WSI22SS(24Core)	○			○				x				x				x				x		x	
	バンドル	WSI9S(2022DG)	○			○				x				x				x				○		○	
		WS22S	○			○				x				○			○				○		○		
		WS22D	x				x			○				○			○				○		○		
		WS22E	○			○				x				x				x				x		x	
		WS22S Add(2/4/16Core)	○			○				x				○			○				○		○		
	メディアキット	WS22D Add(2/4/16Core)	x				x			○				○			○				○		○		
		WSI22SS Add(16/24Core)	○			○				x				x				x				x		x	
		WS22S	○			○				○				○			○				○		○		
		WSI9S	○			○				○				○			○				○		○		
		WS19D	○			○				○				○			○				○		○		
	OS管理ソフト等	WS16S	○			○				○				○			○				○		○		
		WS16D	○			○				○				○			○				○		○		
		DCAL1/5/10/50/100	○			○				○				○			○				○		○		
		UCAL1/5/10/50/100	○			○				○				○			○				○		○		
		RDSDCAL1/5/10/50/100	○			○				○				○			○				○		○		
RDSUCAL1/5/10/50/100		○			○				○				○			○				○		○			
SQL2022(サーバル/ICAL)		○			○				○				x			x				x		x			
SQL2022(4Core)		○			○				○				x			x				x		x			
SQL2022 Add(2Core)		○			○				○				x			x				x		x			
SQL2019		○			○				○				x			x				x		x			
SQL2017	○			○				○				x			x				x		x				
SQL 2022 DCAL1/5/10	○			○				○				x			x				x		x				
SQL 2022 UCAL1/5/10	○			○				○				x			x				x		x				
VMware	OS管理ソフト等	M.2	x			○			○				x			x			○		○				

○：同時手配可 x：同時手配不可

(*1) 1年は基本サポートのみ

システム構成図留意事項

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

- OS用SupportDeskを同時選択する際、組み合わせの可否は以下のようになります(機種により選択可能なSupportDeskは異なります)。

Windows用SupportDesk		SupportDesk Standard (Windows Server)			SupportDesk Standard24 (Windows Server)			SupportDesk Standard (Windows Server Standard 仮想化対応)			SupportDesk Standard24 (Windows Server Standard 仮想化対応)			SupportDesk Standard (Windows Server Datacenter 仮想化対応)			SupportDesk Standard24 (Windows Server Datacenter 仮想化対応)		
		3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年
Linux用SupportDesk	1年																		
	3年																		
	4年																		
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト]	1年																		
	3年		x			x													
	4年																		
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト]	1年																		
	3年		x			x													
	4年																		
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年																		
	4年		x			x													
	5年																		

○：同時手配可 x：同時手配不可

システム構成図留意事項

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

- OS用SupportDeskとハードウェア用SupportDeskを同時選択する際、組み合わせの可否は以下のようになります(機種により選択可能なSupportDeskは異なります)。

ハードウェア用SupportDesk		保証延長バック 翌営業日以降訪問修理			SupportDesk/バック Standard			SupportDesk/バック Standard24			SupportDesk/バック 保守交換ディスク 引渡プラス			SupportDesk/バック 保守交換ディスク 引渡プラス24		
		3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年
OS用SupportDesk SupportDesk Standard (Windows Server)	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 (Windows Server)	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard (Windows Server Standard 仮想化対応)	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 (Windows Server Standard 仮想化対応)	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard (Windows Server Datacenter 仮想化対応)	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 (Windows Server Datacenter 仮想化対応)	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト]	1年				○	○	○				○	○	○			
	3年	×			○	×	×				○	×	×			×
	4年				×	○	×	×			×	○	×			×
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト]	1年							○	○	○				○	○	○
	3年	×						○	×	×				○	×	×
	4年							×	○	×				×	○	×
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト]	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト]	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年				○	×	×				○	×	×			
	4年	×			×	○	×	×			×	○	×			×
	5年				×	×	○				×	×	○			
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年							○	×	×				○	×	×
	4年	×			×			×	○	×				×	○	×
	5年							×	×	○				×	×	○

○：同時手配可 x：同時手配不可

システム構成図留意事項

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

ハードウェア用SupportDesk		SupportDesk/バック BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検プラス			SupportDesk/バック BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検プラス24			SupportDesk/バック BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検・保守交換ディスク 引渡プラス			SupportDesk/バック BIOS/ファームウェアアップデート・ 定期点検・保守交換ディスク 引渡プラス 24						
		3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年	3年	4年	5年				
OS用SupportDesk																	
SupportDesk Standard (Windows Server)	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 (Windows Server)	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard (Windows Server Standard 仮想化対応)	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 (Windows Server Standard 仮想化対応)	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard (Windows Server Datacenter 仮想化対応)	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 (Windows Server Datacenter 仮想化対応)	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト]	1年	○	○	○	x	○	○	○	○	○	○	x	○	○			
	3年	○	x	x											○	x	x
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/1ゲスト]	1年	x	x	○	○	○	○	x	○	○	○	○	○				
	3年				○	x	x				○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2CPU/4ゲスト]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 基本サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 基本サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/1ゲスト]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2CPU/4ゲスト]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux VDC 拡張サポート 2CPU/ゲスト無制限 (ゲスト専用)]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				
SupportDesk Standard [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年	○	x	x	x	○	x	x	○	x	x	x	○	x			
	4年	x	○	x											x	○	x
	5年	x	x	○											x	x	○
SupportDesk Standard24 [Red Hat Enterprise Linux 拡張サポート 2ゲスト(ゲスト専用)]	3年	x	x	○	○	x	x	x	○	x	○	x	x				
	4年				x	○	x				x	○	x				
	5年				x	x	○				x	x	○				

○：同時手配可 x：同時手配不可

※ OS により接続可能装置は異なります。詳細はハードウェア一覧を参照願います。

各OSの仮想化機能について

当社サポート可能なゲストOSと各OSの組合せは下表のとおりです。

※各サーバにて使用可能なホストOSはサーバ本体のサポートOSに準じます。

- ・VMwareでサポートしているゲストOSと対応製品条件についての最新情報は、以下の「当社がサポートする、ESXi 各バージョンのゲストOS」をご確認ください。当社ホームページ(<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/support/>)をご参照ください。
- ・Hyper-VでサポートしているゲストOSと対応製品条件についての最新情報は、以下の「当社サポート可能なゲストOS」をご確認ください。当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/software/windows/technical/hv/index.html>)

ゲストOS	ホストOS						RHEL8 (Intel64) (KVM)			SLES 12 (x86_64)					SLES 15 (x86_64)				VMware		
	WS12 S/D	WS12R S/D	WS16 S/D	WS19 S/D	WS22 S/D	Hyper-V	8.0~8.3	8.4/8.5	8.6~	9.0~9.4	GA	SP1	SP2/SP3	SP4	SP5	GA	SP1/SP2	SP3	SP4/SP5	vS7	vS8
	Hyper-V	Hyper-V	Hyper-V	Hyper-V	Hyper-V						KVM/XEN					KVM/XEN					
Windows	WS22S	x	x	x	○	○	x	○(*1)(*2)	○(*1)(*2)				x				x		○(*1)(*2)	○	○
	WS22D	x	x	x	○	○	x	○(*1)(*2)	○(*1)(*2)				x				x		○(*1)(*2)	○	○
	WS22E	x	x	x	○	○	x	○(*1)(*2)	○(*1)(*2)				x				x		○(*1)(*2)	○	x
	WS19S	x	x	○	○	○		○(*1)(*2)	○(*1)(*2)			x			○(*1)(*2)	x		○(*1)(*2)		○	○
	WS19D	x	x	○	○	○		○(*1)(*2)	○(*1)(*2)			x			○(*1)(*2)	x		○(*1)(*2)		○	○
	WS19E	x	x	○	○	○		○(*1)(*2)	○(*1)(*2)			x			○(*1)(*2)	x		○(*1)(*2)		x	x
	WS16S	x	○	○	○	○		○(*1)(*2)	○(*1)(*2)		x			○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		○	○	○
	WS16D	x	○	○	○	○		○(*1)(*2)	○(*1)(*2)		x			○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		○	○	○
	WS16E	x	○	○	○	○		○(*1)(*2)	○(*1)(*2)		x			○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		○	○	○
	WS12RS	○	○	○	○	○		○(*1)(*2)		x				○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		○	○	○
	WS12RD	○	○	○	○	○		○(*1)(*2)		x				○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		○	○	○
	WS12RF	x	x	x	x	x		x		x				○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		x	x	
	WS12RE	○	○	○	○	○		x		x				○(*1)(*2)			○(*1)(*2)		x	x	
	WS12S	○	○	○	○	○		x		x				x			x		○	○	○
	WS12D	○	○	○	○	○		x		x				x			x		○	○	○
	WS12F	x	x	x	x	x		x		x				x			x		x	x	
	WS12E	○	○	○	○	○		x		x				x			x		○	○	○
	W11H	x	x	x	○	○		x		x				x			x		○	○	○
	W11P	x	x	x	○	○		x		x				x			x		○	○	○
	W11EN	x	x	x	○	○		x		x				x			x		○	○	○
W11ED	x	x	x	○	○		x		x				x			x		x	x		
W10H	x	○	○	○	○		x		x				x			x		○	○	○	
W10P	x	○	○	○	○		x		x				x			x		○	○	○	
W10EN	x	○	○	○	○		x		x				x			x		○	○	○	
W10ED	x	○	○	○	○		x		x				x			x		x	x		
Linux	RHEL9(Intel64)	x	x	x	x	○	x	○	○				x			x		○	○	○	
	RHEL8(Intel64)	x	x	○	○	8.6~		○	○				x			x		○	○	○	
	RHEL7(Intel64)	○	○(*3)	7.2~	7.6~	x		○	○				x			x		○	○	○	
	RHEL6(x86/Intel64)	6.4~	6.4~(*4)	6.7~	x	x		○	○				x			x		○	○	○	
	RHEL5(x86/Intel64)	5.9~	5.9~(*4)	x	x	x		x	x				x			x		○	○	○	
	SLES 15 (x86_64)	x	x(*5)	x(*5)	x(*5)	x		x	x	x	GA	SP1~				GA	SP1~		SP1~	SP4~	
	SLES 12 (x86_64)	x	SP1	SP1, SP2	x(*5)	x		x	x	x	GA		GA, SP1~			GA, SP1~		SP3~		SP5	SP5
SLES 11 (x86_64)	x	SP4	SP4	x(*5)	x		x	x	x			SP3, SP4			SP3, SP4		SP4		x	x	

○：サポート対象(記載のSP/版数内でのサポートとなります) x：サポート対象外を示す。

- (*1) KVM/XEN上のWindowsゲストでは、MSCS(Microsoft Cluster Server) / MSFC(Microsoft Failover Cluster)を使用したクラスタ構成はサポート対象外となります。
- (*2) Linux仮想環境において、ゲストOSにWindows OS をインストールする場合、PRIMERGY本体にインストールまたはバンドルしてお届けするWindows OSオプション(PY型名)に添付されるインストールメディアは利用できません。別途、パッケージ製品やボリュームライセンス製品のインストールメディアをご使用ください。
- (*3) 第2世代仮想マシンを使用する場合、セキユアブート機能を無効にする必要があります。
- (*4) 第1世代仮想マシンのみのサポートとなります。第2世代仮想マシンは、ハードウェア認証未取得のためサポートされません。
- (*5) Hyper-V上におけるLinuxサポートの最新情報は当社ホームページ(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/software/windows/technical/hv/index.html>)をご確認ください。

システム構成図で紹介するWeb情報

分類内容	内容/URL
PRIMERGY情報サイト	https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/
PRIMERGYコンフィグ(システム構成ツール)	製品ラインナップからモデルを選択し「構成・価格」ボタンからコンフィグに入り、構成部品を選択するだけで、構成リストと価格がExcel形式で出力できます。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/
ServerView Suite ServerView Suite DVD	システムの構築、制御、最適化、保守、連携を行う、サーバ運用管理の総称です。 https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/svs/ サーバ運用管理はDVDで提供され、新製品のサポートや不具合修正などで定期的に更新されます。 https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsdvd/
オプション選択指針 SATA HDDの選択・使用条件 USBメモリを必要とする作業	https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/harddisk/ https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/
OSのサポート情報、動作確認情報 Windows Linux VMware 未サポートOS情報	https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/software/windows/support/ https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/linux/technical/support/kernel.html https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/support/ https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/linux/products/distribution/free-os.html
ダウンロード	最新のソフトウェア/ドライバやBIOS/ファームウェアがダウンロードできます。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/
ラック情報	19インチラック関連情報や他社製ラックへの搭載などの情報です。 https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/peripheral/rack/
技術情報 性能情報 消費電力計算ツール	https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/performance/ https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/technical/calculate/
サポート情報 重要なお知らせ 製品保証ご案内 製品の販売終息と保守終了情報 セキュリティ情報	https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/support/ https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/note/ https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/support/repair.html https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/support/terminate/ http://www.fmworld.net/biz/security/
サービス情報 運用・保守サポート SupportDesk(PRIMERGY) カスタムメイドプラス インフラ基本導入サービス	https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/support/supportdesk.html https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/service/hard-builtin/ https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/support/service/infra-basic.html
マニュアル	ServerView Suite ServerBooks に主要なマニュアルが格納されています。 また、モデル個別マニュアルやオプションマニュアルなどが別途あります。 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/
消耗品、データメディアの購入	LTOテープ、データカートリッジ https://www.fujitsu.com/jp/group/coworco/products/supply/media/

PRIMERGY 留意事項編 更新履歴

版数	日付	更新箇所	更新内容
74版	2024/7/9		7月エンハンス内容の反映
73版	2024/4/23		4月エンハンス内容の反映
72版	2024/2/6		2月エンハンス内容の反映
71版	2023/10/24		10月エンハンス内容の反映
70版	2023/8/1	表「OS標準バックアップユーティリティ対応表」	WS22S/D/E、WSI22SSのRDX装置の記載を変更
69版	2023/7/25		7月エンハンス内容の反映
		メモリの動作モードについて	■RX2530 M6/RX2540 M6の場合 【DIMMの搭載位置】の記載を修正
68版	2023/5/23		5月エンハンス内容の反映
67版	2023/3/28		TX2550 M7の情報を追加
66版	2023/3/9		3月エンハンス内容の反映
65版	2023/1/24		1月エンハンス内容の反映
64版	2022/10/25		10月エンハンス内容の反映
63版	2022/8/9	内蔵ストレージ関連事項	SASアレイコントローラカード[PY-SR3C43H/PYBSR3C43H]を追加
62版	2022/7/26		7月エンハンス内容の反映
61版	2022/4/19		4月エンハンス内容の反映
60版	2022/2/3		2月エンハンス内容の反映
59版	2021/10/19		10月エンハンス内容の反映
58版	2021/8/3		8月エンハンス内容の反映
57版	2021/6/8		6月エンハンス内容の反映
56版	2021/2/2		2月エンハンス内容の反映
55版	2020/11/10		11月エンハンス内容の反映
54版	2020/9/8		9月エンハンス内容の反映
53版	2020/7/30	内蔵ストレージ関連事項 iRMC(リモートマネジメントコントローラ)関連	SASアレイコントローラカード[PY-SR3C41/PYBSR3C41/PY-SR3C42/PYBSR3C42/ PY-SR3C43/PYBSR3C43]を追加
52版	2020/5/19		5月エンハンス内容の反映
51版	2020/4/1		4月エンハンス内容の反映
50版	2020/2/25		2月エンハンス内容の反映
49版	2019/11/1		11月エンハンス内容の反映
48版	2019/7/16		7月エンハンス内容の反映
47版	2019/5/10	メモリの動作モードについて	■RX2530 M5/RX2540 M5の場合、■RX4770 M5の場合 ランクスベアリングモードの【メモリ使用可能容量】を修正 インディペンデントチャンネルモード、ランクスベアリングモード、ミラードチャンネルモードの説明を修正 ■CX2550 M5/CX2560 M5の場合 ランクスベアリングモードを追加 インディペンデントチャンネルモード、パフォーマンスモード、ミラードチャンネルモードの説明を修正
46版	2019/4/3		4月エンハンス内容の反映
45版	2019/1/29		1月エンハンス内容の反映
44版	2018/12/18		12月エンハンス内容の反映
43版	2019/1/29		1月エンハンス内容の反映
42版	2018/12/18		12月エンハンス内容の反映
41版	2018/7/31		7月エンハンス内容の反映
40版	2018/6/12	メモリの動作モードについて	RX4770 M4 Mirror Mode時DIMM搭載位置の修正
39版	2018/5/24	メモリの動作モードについて	RX2530 M4/RX2540 M4 Mirror Mode時DIMM搭載位置の修正
38版	2018/4/3		4月エンハンス内容の反映
37版	2018/2/14	メモリの動作モードについて	■RX2530 M4/RX2540 M4の場合、■RX4770 M4の場合のランクスベアリングモード 【メモリ使用可能容量】および【DIMMの搭載位置】を修正
36版	2018/1/30		1月エンハンス内容の反映
35版	2017/12/4		Red Hat Enterprise Linux 7.2媒体バンドルを削除(販売終了)
34版	2017/11/2		11月エンハンス内容の反映
33版	2017/8/29		8月エンハンス内容の反映
32版	2017/7/12		7月エンハンス内容の反映
31版	2017/5/30		5月エンハンス内容の反映
30版	2017/4/11		4月エンハンス内容の反映
29版	2017/2/8		2月エンハンス内容の反映
28版	2016/11/28	表「NetVault Backup for Windows対応表」 表「NetVault Backup for Linux対応表」 表「OSオプション、SupportDesk、複数同時選択時の組み合わせについて」 表「各OSの仮想化機能について」	NetVaultBackup 8.6およびNetVaultBackup 8.6.3を削除 Windows Server 2016 Essentials インストール、Windows Storage Server 2016 Standard(2CPU/2VM) インストール、Windows Server 2016 Standard メディアキットを追加 Windows Server 2016 Standard Additional Licenseの手配可能数を変更 VMwareとMicrosoft SQL Serverを同時手配可能に変更 SupportDesk Standard/Standard24(Windows Server Datacenter 仮想化対応)とメディアキットを同時手配可能に変更 VMwareのゲストOSとして、WS16S/WS16D/WS16Eをサポート
27版	2016/10/17		10月エンハンス内容の反映
26版	2016/8/2		8月エンハンス内容の反映
25版	2016/7/8	セキュリティチップ(TPM)およびインテル トラステッド・エグゼキューション・テクノロジー(インテル® TXT)のサポートについて	セキュリティチップの型名修正
24版	2016/6/7		6月エンハンス内容の反映

版数	日付	更新箇所	更新内容
23版	2016/4/4		4月エンハンス内容の反映
22版	2015/12/22		12月エンハンス内容の反映
21版	2015/8/28		8月エンハンス内容の反映
20版	2015/7/3	表「サーバ監視・管理ソフトウェア(ServerView Suite)について」	サーバ監視・管理ソフトウェア(ServerView Suite)についての注記追加
19版	2015/6/12	表「サーバ監視・管理ソフトウェア(ServerView Suite)について」	サーバ監視・管理ソフトウェア(ServerView Suite)についての内容変更
		表「バックアップ装置関連事項」	Netvault Backup 8.5、8.5.2の削除 Backup Exec 15追加
		表「OSオプション、SupportDesk、複数同時選択時の組み合わせについて」	VMware vSphere Hypervisor 6.0用 USB Flash モジュールの型名修正
		表「各OSの仮想化機能について」	VMware vS6とRHEL5(x86/Intel64) の組合せを変更
18版	2015/5/7		5月エンハンス内容の反映
17版	2015/4/2		4月エンハンス内容の反映
16版	2015/2/12		2月エンハンス内容の反映
15版	2015/1/16		1月エンハンス内容の反映
14版	2014/12/9	メモリ関連事項	ミラードチャンネルモードの対象機種にRX200 S8を追加
13版	2014/11/18		11月エンハンス内容の反映
12版	2014/9/9		9月エンハンス内容の反映
11版	2014/8/21		8月エンハンス内容の反映
10版	2014/7/22	メモリ関連事項	ミラードチャンネルモードの対象機種からRX200 S8を削除
9版	2014/5/12		5月エンハンス内容の反映
8版	2014/1/9		1月エンハンス内容の反映
7版	2013/11/5		11月エンハンス内容の反映
6版	2013/9/11		9月エンハンス内容の反映
5版	2013/7/3	Windows関連事項	Windows関連事項の内容見直し
4版	2013/5/8	内蔵ストレージ関連事項	<構成規則について> の(5)の表に、SASアレイコントローラ拡張ボード[PYBSRD081A]を追加、およびSASアレイコントローラ拡張ボード[PY-SRD08]の記載位置を修正
3版	2013/4/23		4月エンハンス内容の反映
2版	2013/1/22		1月エンハンス内容の反映
初版	2012/10/17		新規作成